

第15回宇和島市・北宇和郡中学校新人総合体育大会

期 日 令和 2年 9月30日 (水)

10月 1日 (木)

10月 2日 (金)

(雨天決行 一部順延)

会 場

大会本部	宇和島市立城北中学校
バレーボール	吉田町ふれあい運動公園
バスケットボール	宇和島市総合体育館
卓球	鬼北総合公園
ソフトテニス	津島プレーランド
軟式野球	丸山公園野球場
サッカー	丸山公園多目的グラウンド
柔道	宇和島市総合体育館
剣道	三間町国民体育館
体操競技	宇和島市総合体育館 (※)
テニス	三間町運動公園

※ 10月2日 (金) 開催

主 催

宇和島市教育委員会
松野町教育委員会
鬼北町教育委員会
宇和島市中学校体育連盟
北宇和郡学校体育会

大会テーマ

君の夢 羽ばたけ 愛媛の青空へ

開会式次第

- 1 開 式 宣 言
- 2 審 判 長 注 意
- 3 閉 式 宣 言

開閉会式担当者

競技名	会 場	表 彰 者	開場時刻	開 会 式	競技開始
バレーボール	吉田町ふれあい運動公園	毛利 正寛（松野）	8:00	9:00	9:30
バスケットボール	宇和島市総合体育館	山本 浅幸（城南）	8:00	8:30	9:00
卓 球	鬼北総合公園	中村 俊二（津島）	8:00	9:00	9:20
ソフトテニス	津島プレーランド	岡田 雅彦（日吉）	7:50	8:50	9:10
軟 式 野 球	丸山公園野球場	牛川 頼明（吉田）	8:00	9:00	9:30
サ ッ カ ー	丸山公園多目的グラウンド	石止伊佐美（城北）	8:00	8:30	9:30
柔 道	宇和島市総合体育館	池田 博行（城東）	8:00	9:40	10:00
剣 道	三間町国民体育館	河野 昇治（宇南）	7:30	9:15	9:40
体 操 競 技	宇和島市総合体育館	平野 昌稔（広見）	13:30	14:30	14:40
テ ニ ス	三間町運動公園	片山 公善（三間）	7:30	8:20	8:30

※ 大会2日目の競技開始時刻

9:00（バスケットボール・ソフトテニス・サッカー）

9:20（卓球）

9:30（軟式野球・バレーボール）

閉会式次第

- 1 開 式 宣 言
- 2 成 績 発 表
- 3 表 彰
- 4 閉 式 宣 言

大会規定

競技者・指導者・役員は、スポーツマンとしての態度で終始する。各競技責任者並びに審判長は本大会規定違反者に対しては厳重に注意しなければならない。はなはだしい場合には大会委員会で審議の上、競技資格を認めない。

1. 競技に関するもの

- (1) 競技は全て県新人規定並びに本大会競技規定によって行う。
- (2) 競技者・指導者・応援者はフェアプレーの精神を貫き、相手の中傷するような言動、判定への不当な抗議等は厳に慎み、敵・味方の区別なく、さわやかな声援を送る。
- (3) バレーボール男子・バスケットボール男女の決勝とバレーボール女子・軟式野球・サッカーの準決勝以降の試合は翌日実施とする。
- (4) ソフトテニス個人、卓球個人2回戦以降の試合は翌日実施とする。

2. 出場資格に関するもの

- (1) 団体競技 1校1チーム
- (2) 個人競技
 - 卓 球 1校シングルス10名以内
 - ソフトテニス 1校5ペア以内
 - 柔 道 制限しない
 - 剣 道 1校10名以内
 - 体操競技 制限しない
 - テ ニ ス 1校シングルス16名以内、ダブルス8ペア以内
- (3) 1人が2競技以上に出場することはできない。
- (4) 外部指導者（コーチ）は、以下の10競技に限り校長の承認を得てベンチ入りすることができる。なお、外部指導者（コーチ）証を必ず付けることとする。テクニカル・アドバイザーも同様の扱いとする。

○ バレーボール	○ バスケットボール	○ 卓 球	○ ソフトテニス
○ 軟 式 野 球	○ ソフトボール	○ サ ッ カ ー	○ 柔 道
○ 体 操 競 技	○ テ ニ ス		
- (5) 卓球・体操競技の2競技に限り、複数の学校における外部指導者（コーチ）として登録できる。ただし、複数の競技における外部指導者（コーチ）としては登録できない。
- (6) 当該校以外の中学校の校長・教職員（行政関係は除く）は、外部指導者（コーチ）としての資格をもたない。ただし、「体操競技」は、選手の安全確保を目的として、当該校以外の中学校に勤務する教職員を「テクニカル・アドバイザー」として登録できる。
- (7) けが・病気等で出場できなくなった者については、校長の承認を得て、大会当日の監督会議で変更届を提出すれば、変更を認める。（団体及びソフトテニス個人・テニスダブルスのみとし、ソフトテニス個人・テニスダブルスは個人の登録選手以外から追加登録すること。）
- (8) 2校以上の合同チームは、県中体連の合同チーム編成規程により大会への参加を認める。

3. 開会式に関するもの

- (1) 開会式には、原則第1試合に出場する2チームが参加する。
- (2) 特別な理由なく開会式に参加しなかった者は、競技参加を認めない。
- (3) 服装は体操服・ユニフォーム等、チームで統一する。

4. 県新人体育大会出場資格に関するもの

競 技 名	団 体 出 場 数	個 人 出 場 数
バレーボール	男子4チーム以上→2 女子8チーム以上→2	
バスケットボール	男女とも8チーム以上→2	
卓 球	男女とも6チーム以上→2	シングルス→8
ソフトテニス	男女とも7チーム以上→2	男子 4 女子 8
軟式野球	7チーム以上→2	
サッカー	6チーム以上→2	
柔 道	男子5チーム以上→3 女子フリー	男子 4 女子 4
剣 道	男女とも5チーム以上→2	男子 8 女子 4
体操競技	全チーム	上位 4
テ ニ ス	男女ともフリー	シングルス 16 ダブルス 8

※ 柔道・剣道は順位決定戦を行う。

5. 表彰に関するもの

- (1) 団体競技1位校には優勝杯と学校及び登録選手全員に賞状を授与する。2位校には賞状を授与する。
- (2) 個人競技では、3位までの入賞者に賞状を授与する。

6. 感染症対策に関するもの

- (1) 大会前日までに参加同意書を校長に提出する。
- (2) 事前に観戦申込書を顧問に提出する。顧問は入場者を確認し、体調確認表を配付する。
- (3) 大会当日、2週間分の体温を記録した体調記録表を大会本部（競技責任者）に提出する。
- (4) 次に該当する場合は大会への参加・観戦を見合わせる。
 - ・ 体調不良の場合、体調がよくない場合（37.5℃以上の発熱、臭覚や味覚異常、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・ 家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染症が疑われる方がいる場合
 - ・ 海外や感染拡大地域等から来県・帰県し、2週間経過していない方、またその方との濃厚接触がある場合
- (5) 受付が終了し、入場確認ができた方はシールを受け取り、その日の競技が終了するまでマスク等に貼る。
- (6) 会場では、競技する選手以外は、原則マスク等を着用する。ただし、競技の特性上、マスク等を着用しない場合がある。
- (7) 大会当日の応援に関して、以下の点について事前アナウンスを行う。
 - ・ 具合の悪い来場を見合わせていただくこと
 - ・ マスク等を必ず着用したうえで来場すること
 - ・ 各自密接にならない程度の間隔をあけること
 - ・ できる限り大声を出しての応援は自粛すること
（観覧席では、声を出さず拍手のみとする）
- (8) タオルやドリンク等の共用はしない。

7. その他

- (1) 組合せ抽選は、第4回市郡中学校体育研修会において各校理事の責任抽選とする。
- (2) 競技責任者は大会終了後、大会結果を大会本部（城北中学校）まで報告すること。
- (3) 団体競技の規定数は次のとおりとする。

バレーボール【12+①】 バスケットボール【15+①】 卓球【8】

ソフトテニス【8】 軟式野球【18】 ソフトボール【18】

サッカー【18】 柔道男子【7】 柔道女子【4】 剣道【7】

体操競技【5】 相撲【5】 テニス【10】

※ ①……マネージャー

参加状況及び競技方法等

学校名等	性	城	城	城	吉	三	津	宇	松	広	日	団体合計	競技方法	県新人枠
競技名	別	東	南	北	田	間	島	南	野	見	吉			
バレーボール	男	○							○			2	決勝	1
	女	○	○	○	○		○	○	○	○		8	トーナメント	2
バスケットボール	男	○		○		○	○	○				5	トーナメント	1
	女	○	○	○	○	○		○		○		7	トーナメント	1
卓球	男	○	○	○	○	○	○	○		○		8	トーナメント	2
	女	○	○	○	○	○	○	○		○		8	トーナメント	2
ソフトテニス	男	○	○	○			○	○		○	個	6	トーナメント	1
	女	○	○	○	○		○	○	○	○	○	9	トーナメント	2
軟式野球	共	○	合	○	○	合	○	○	合	○		7	トーナメント	2
ソフトボール	女													
サッカー	共	○	○	○				○		○		5	トーナメント	1
柔道	男	○		○	○	○	○		個			5	トーナメント	3
	女			○		個	個					1	認定	フリー
剣道	男	○	個	○		○		○		○		5	トーナメント	2
	女	個	個			個		○				1	認定	1
体操競技	男													
	女			○								1	発表	全チーム
テニス	男	個				○		個				1	認定	フリー
	女					○		個				1	認定	フリー
団体合計		12	8	13	7	9	8	11	4	9	1			

◎ 各校名の表記 城東・城南・城北・吉田・三間・津島・宇南・松野・広見・日吉

大会本部役員

名誉大会長 宇和島市教育委員会教育長
 松野町教育委員会教育長
 鬼北町教育委員会教育長
 大会長 宇和島市中学校体育連盟会長
 大会副会長 北宇和郡学校体育会長
 顧問 南予教育事務所長
 参与 宇和島市中学校体育連盟副会長
 宇和島市立城南中学校長
 宇和島市立城東中学校長
 宇和島市立吉田中学校長
 宇和島市立津島中学校長
 愛媛県立宇和島南中等教育学校長
 鬼北町立日吉中学校長
 松野町立松野中学校長
 大会委員長 北宇和郡学校体育会理事長
 大会副委員長 宇和島市中学校体育連盟理事長
 大会委員 宇和島市中学校体育連盟理事
 宇和島市中学校体育連盟理事
 宇和島市中学校体育連盟理事
 宇和島市中学校体育連盟理事
 宇和島市中学校体育連盟理事
 宇和島市中学校体育連盟理事
 北宇和郡学校体育会理事
 北宇和郡学校体育会理事

金 瀬 聡
 三 好 秀 二
 松 浦 秀 樹
 石 止 伊佐美
 平 野 昌 稔
 中 尾 茂 樹
 片 山 公 善
 山 本 浅 幸
 池 田 博 行
 牛 川 頼 明
 中 村 俊 二
 河 野 昇 治
 岡 田 雅 彦
 毛 利 正 寛
 加賀山 和 宏
 八十島 洋 平
 脇 本 健太郎
 宮 崎 つる乃
 佐 伯 翔 平
 武 田 尚 之
 窪 内 秀 世
 重 見 一 平
 林 惇
 梶 谷 宗 範

救護員及び救急指定病院

競 技 名	会 場	救 護 員	救急指定病院
バレーボール	吉田町ふれあい運動公園	高山 佳代 (松野)	宇和島市御殿町 市立宇和島病院 (25-1111) 宇和島市広小路 鎌野整形外科 (24-6611) 宇和島市住吉町 宇和島徳洲会病院 (22-2811) 宇和島市吉田町 溜尾整形外科 (52-3133) 宇和島市三間町 松崎クリニック (58-4828) 宇和島市津島町 市立津島病院 (32-2011) 北宇和郡鬼北町 町立北宇和病院 (45-1221)
バスケットボール	宇和島市総合体育館	安居 結花 (吉田)	
卓 球	鬼北総合公園	松本 忍 (広見)	
		岡田 久美 (城南)	
ソフトテニス	津島プレーランド	稲田 佳子 (日吉)	
軟 式 野 球	丸山公園野球場	伊井さつき (津島)	
サ ッ カ ー	丸山公園多目的グラウンド	小川 妙 (城東)	
柔 道	宇和島市総合体育館	加洲由花留 (城北)	
剣 道	三間町国民体育館	宮部 美香 (宇南)	
体 操 競 技	宇和島市総合体育館	加洲由花留 (城北)	
テ ニ ス	三間町運動公園	佐々木雛美 (三間)	

※ 救護員は、大会2日目も同じ会場を担当する。

バレーボール

○ 競技責任者 菊 岡 聡次朗 (吉 田)

○ 会場責任者 菊 岡 聡次朗 (吉 田)

○ 審 判 長 木 口 富 惣 (広 見)

○ 審 判 員

田 村 耕一郎 (宇 和) 田 中 義 則 (宇和島東高) 清 家 祥 (宇和島東高)

堀 切 元 生 (吉田高) 加 洲 成 人 (八幡浜高) 山 口 貴 史 (宇 南)

○ 運 営 員

城 岡 真 実 (城 東) 宮 崎 つる乃 (城 南) 土 居 健太郎 (城 北)

菊 岡 聡次朗 (吉 田) 都 能 伸太郎 (津 島) 加 藤 達 也 (松 野)

安 気 智 洋 (宇 南) 林 惇 (松 野) 山 宮 斎 (城 東)

村 上 嘉 生 (二名小)

○ 競技方法

男子は決勝のみ、女子はトーナメントを行う。

○ 競技規定

1 2020 年度 (公財) 日本バレーボール協会制定 6 人制競技規則及び競技要項に準ずる。

※ リベロプレーヤーについては、一般と同様の「リベロリプレイスメント」ルールで行う。

(取り扱いの詳細は、県中体連ホームページに掲載する。)

2 ベンチに入れる者は、選手 12 名以内と監督・コーチ・マネージャー各 1 名とする。監督・コーチは、当該校の校長・教員・部活動指導員であり、引率者としての責任を負う。コーチは、当該校の校長が認めた者とする。マネージャーは生徒に限る。

なお、コーチが外部指導者 (コーチ) の場合は、当該校の校長が認めた者で、外部指導者 (コーチ) 証を付けること。

3 監督・コーチ・マネージャーは、必ず規定のマークを左胸部につけること。

4 監督・コーチの服装は、統一されたものが望ましい。(短パン、ランニングは不可)

5 試合設定時刻は、プロトコール開始時刻とする。

6 ネットの高さは、男子 2 m 3 0 c m、女子 2 m 1 5 c m とする。

7 ボールは 4 号球で、人工皮革・カラーボールを使用する。(男：モルテン、女：ミカサ)

8 公式練習は、毎試合ごとに行う。

9 登録選手及びチームスタッフの変更については、当該チームの第 1 試合プロトコール開始までに各会場の本部に連絡すること。

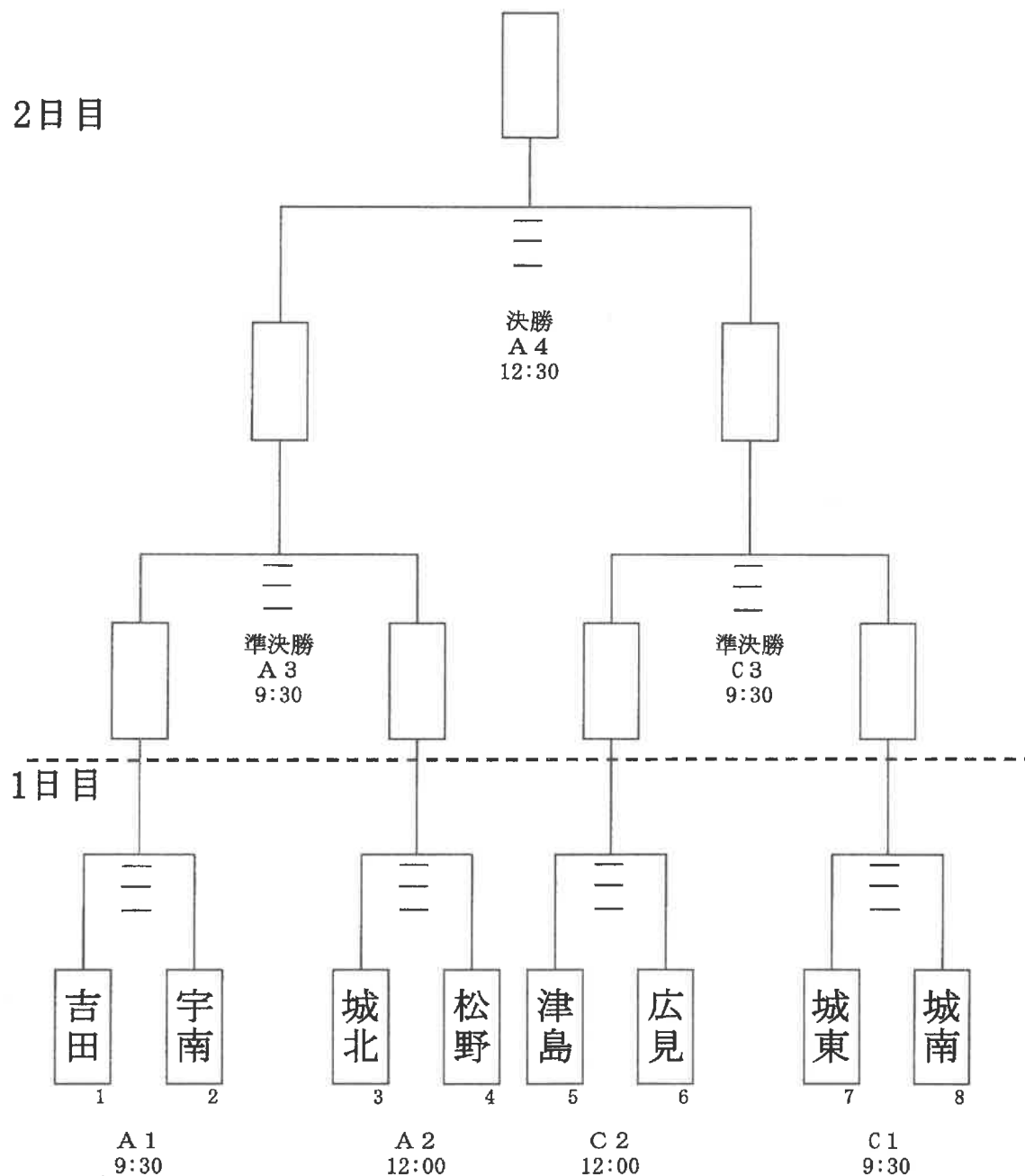
組 合 せ

バレーボール男子 決勝（Bコート）（競技開始11:00）

城東 三 松野

バレーボール女子（A・Cコート）

2日目



今年は、事前にお伝えした通り、トーナメントで行います。
 開会式への参加は第1試合のチームのみとします。
 設定時刻で試合をしていきます。会場への入場は原則30分前まではできません。

バスケットボール

○ 競技責任者 工 藤 峻 (吉 田)

○ 会場責任者 堀 上 元 貴 (城 南)

○ 審 判 長 西 田 裕 充 (津 島)

○ 審 判 員

佐 竹 克 哉 (南バ協) 清 家 規 晶 (南バ協) 梅 田 望 (南バ協)

宇 田 浩 二 (南バ協) 渡 邊 孝 平 (南バ協) 山 下 真 人 (城 北)

西 田 卓 史 (城 東) 二 神 信次郎 (城 北) 神 野 一 郎 (宇 南)

毛 利 和 麻 (城 東) 新 田 智 大 (城 東)

○ 運 営 員

泉 野 武 憲 (南バ協) 三 好 尚 史 (番城小) 篠 崎 和 文 (宇 南)

河 内 清 志 (三 間) 伊 勢 千 加 (広 見) 宮 本 映 (三 間)

和 田 敬 之 (宇 南) 土 居 愛 捺 (吉 田)

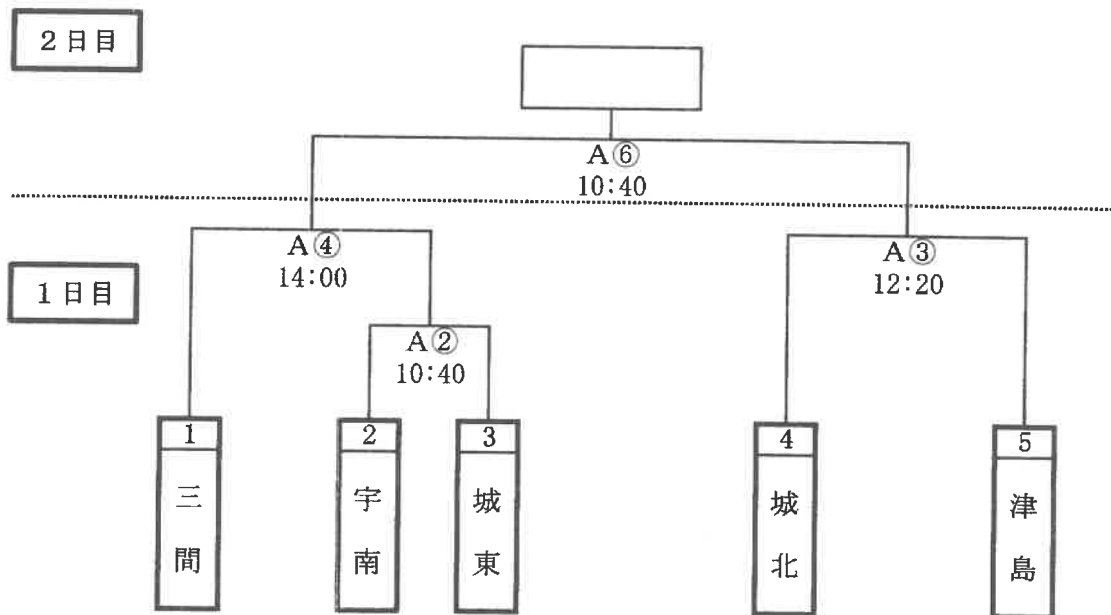
○ 競技方法 男子・女子ともに、トーナメントを行い、2日目に決勝を行う。

○ 競技規定

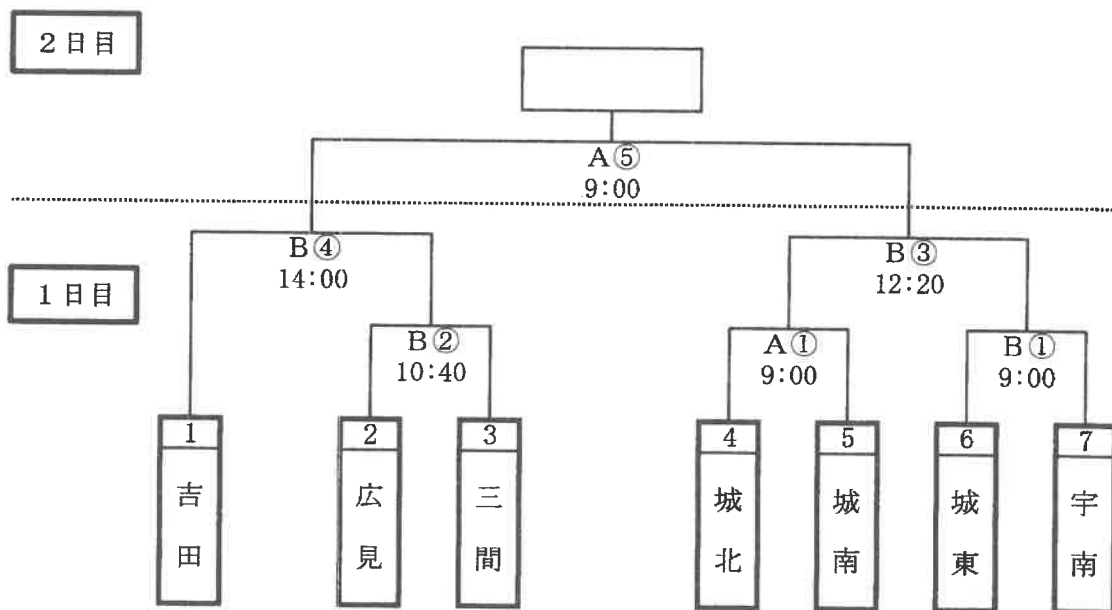
1. 2020～(公財)日本バスケットボール協会競技規則による。
2. 試合球は(公財)日本バスケットボール協会検定球、男子は7号・女子は6号皮革製とする。
3. ベンチは、組合せ番号の小さい方がオフィシャル席に向かって右側とする。
4. ユニフォームの色は、組合せ番号の小さい方が白色とする。
5. ベンチに入る者は登録された選手15名と引率責任者・監督・コーチ・マネージャー各1名とする。引率責任者・監督は出場校の校長・教員(非常勤は除く)・部活動指導員とし、コーチは校長の認めた者とする。また、マネージャーは、出場校の教員または生徒とする。ただし、教員以外の指導者の場合は、試合中証明書を確認できるようにしておく。
6. 監督、コーチは、試合中チームベンチエリア内で両者同時に立ち続けることは認められない。
7. ゾーンディフェンスは認めない。
8. チームトレーナーが帯同する場合は、申込時に所定の「チームトレーナー申請書(校長承諾書)」を提出すること。

組合せ

バスケットボール (男子)



バスケットボール (女子)



卓 球

- 競技責任者 飯 田 修 司 (宇 南)
- 会場責任者 脇 坂 祐 輔 (広 見)
- 審 判 長 揚 野 豪 恭 (城 東)
- 審 判 員 利 根 建 樹 (内 海)
- 運 営 員 前 田 哲 伸 (津 島) 芝 祐 介 (宇 南) 武 田 尚 之 (三 間)
重 見 一 平 (宇 南) 下 田 新 (三島小) 増 田 典 嗣 (好藤小)

○ 参 加 規 定

1. 団体戦 同一校の選手3～8名以内、監督1名をもって編成登録する。なお、監督の他にコーチとして、出場校の教職員（部活動指導員含む）もしくは校長の承認を得た外部指導者（コーチ）どちらか1名のベンチ入りを認める。
2. 個人戦 アドバイザーとして、1名のベンチ入りを認める。ただし、監督または、当該校の教職員（部活動指導員含む）、校長の承認を得た外部指導者のいずれかとする。

○ 競 技 方 法

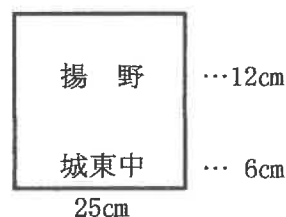
1. 男女とも、団体、個人ともにトーナメントとする。
2. 1日目に団体、個人1回戦を行い、2日目に個人2回戦以降を行う。

○ 競 技 規 定

1. 現行の（公財）日本卓球協会ルールを適用する。（全ての試合で、タイムアウト・促進ルールを適用する。）
2. ユニフォームの背部に右のゼッケンをつける。（同姓の場合は名を一字だけ加える。）
3. オーダー用紙は、相互交換とする。
4. 大会使用球は、（公財）日本卓球協会公認ホワイト球（プラスチック）とする。TSP (CP40+) (40mm)

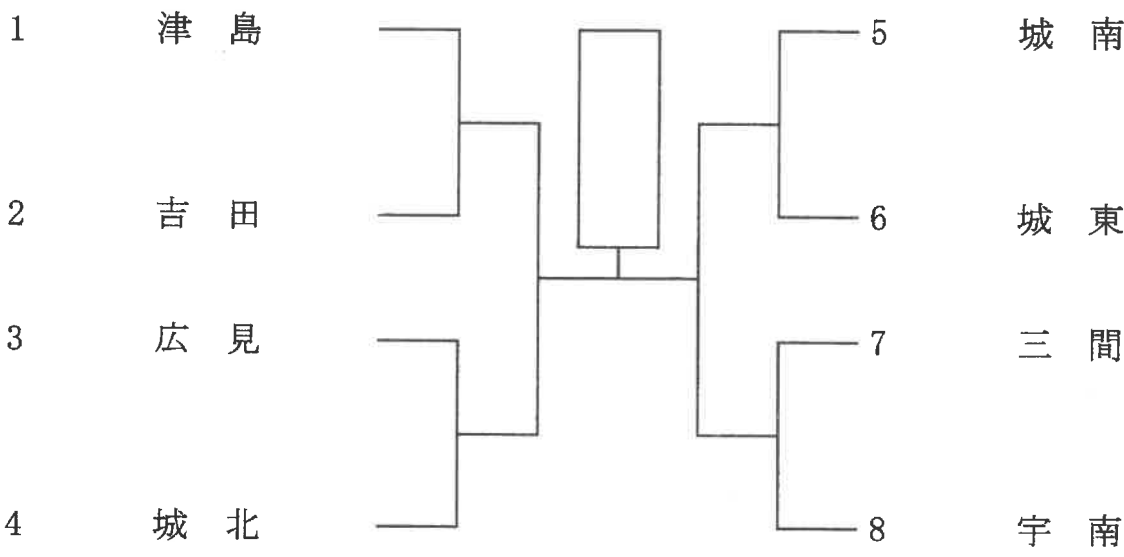
※Nittaku、Butterfly (A40+) の持ち込み可。

ただし、1試合ごとに新球を使用すること。

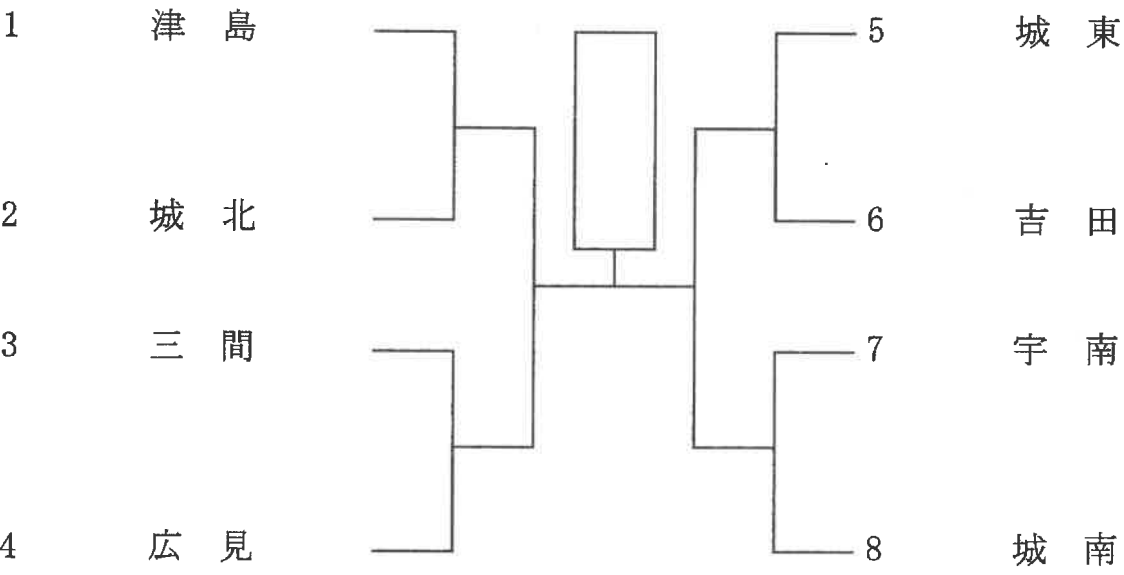


- (注)
- ① サービスは16cm以上投げ上げること。
 - ② 試合中のタオル使用は、6本ごとのサービス交代時のみとする。
（最終ゲームは、どちらかが5ポイント先取した時のみとする）
 - ③ ゼッケンは、日本卓球協会のものも認める。
 - ④ ツブ高ラバー及びラバーの接着等を含め、審判長の判断でラケット交換を要求することができる。
 - ⑤ ペンホルダーのラケットは、表裏を赤黒の異色にする。

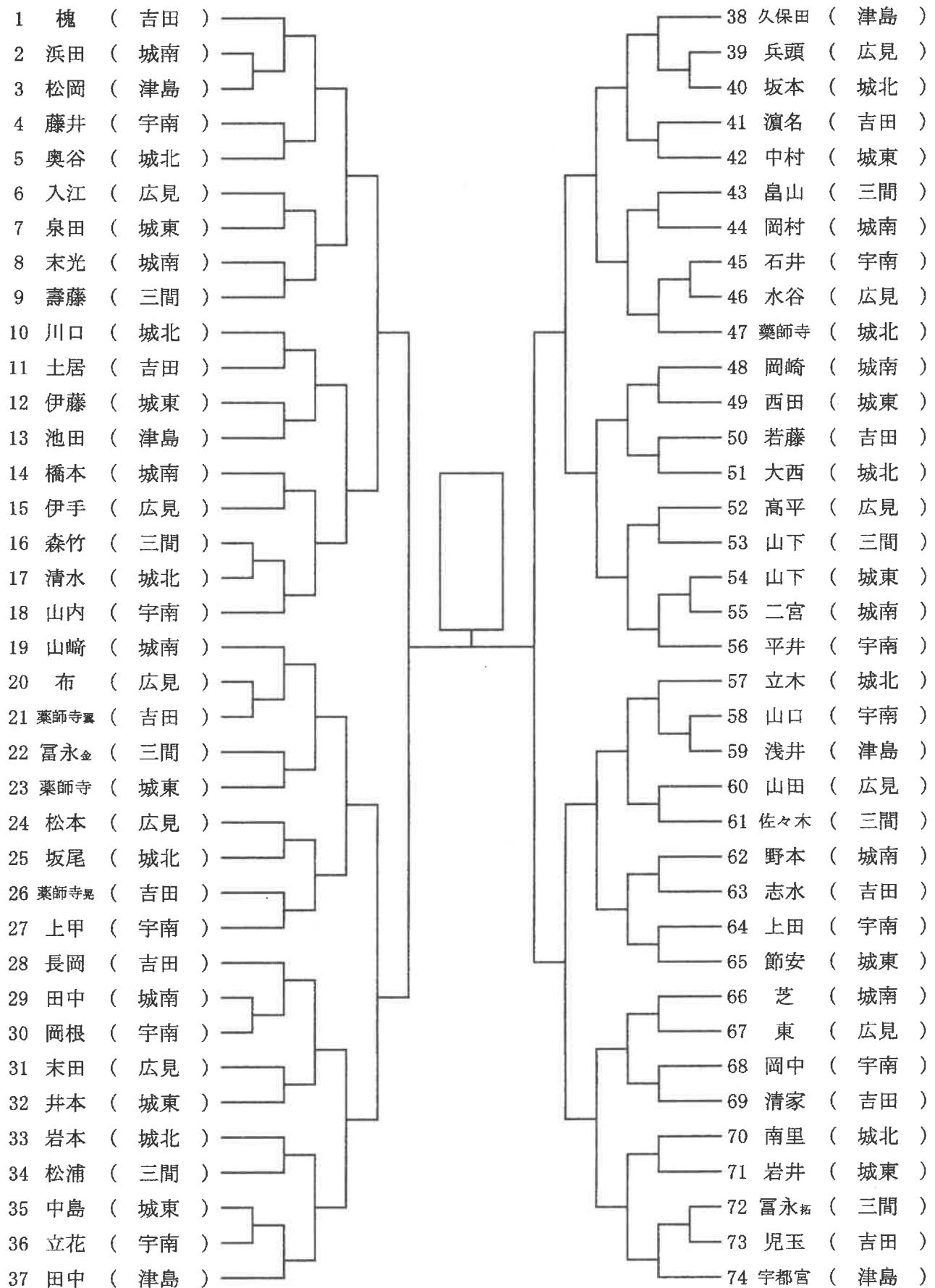
卓球 団体 (男子)



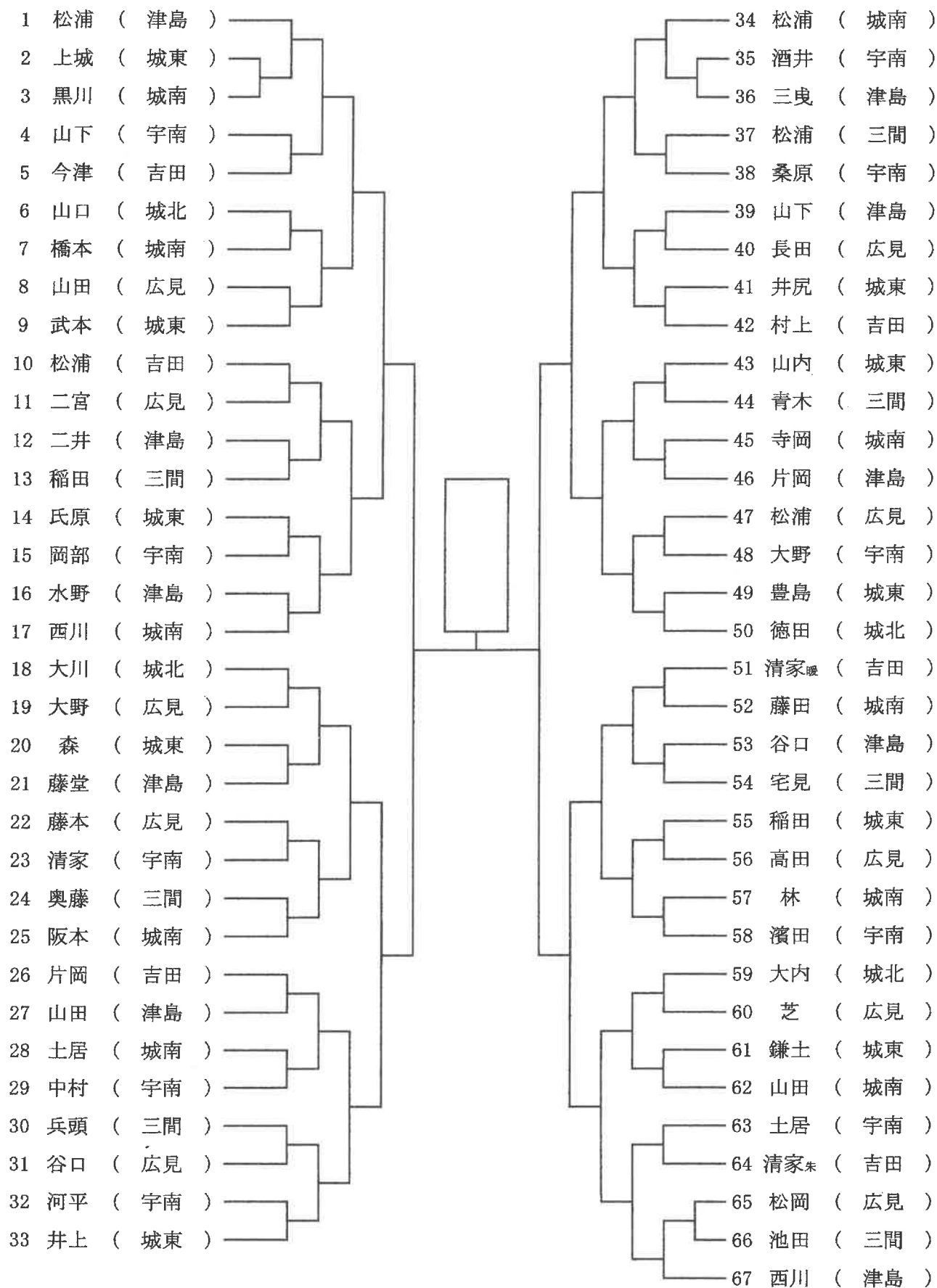
卓球 団体 (女子)



卓球 個人戦 男子シングルス



卓球 個人戦 女子シングルス



ソフトテニス

○ 競技責任者 中 村 慎 吾 (城 北)

○ 会場責任者 垣 内 智 善 (津 島)

○ 審 判 長 徳 田 英 樹 (日 吉)

○ 審 判 員

大 嶋 真 広 (津 島) 柿 本 弘 樹 (城 東) 木 村 貴 幸 (城 南)

濱 田 町 子 (宇 南) 松 浦 一 (宇 南) 小 島 啓 明 (広 見)

岡 田 幸 俊 (広 見) 水 野 公 貴 (日 吉) 坂 本 忠 司 (城 北)

増 田 智 之 (城 東)

○ 運 営 員 井上 理 (岩松小) 窪 内 秀 世 (津島中理事)

○ 参加規定

1. 団体戦は、同一校の選手4名以上8名以内と監督1名で構成する。

2. 個人戦は、同一校の選手2名と監督1名で構成する。

○ 競技方法

1. 団体戦、個人戦ともにトーナメントとし、7ゲームマッチで行う。

2. 団体戦において、4名(2ペア)で出場する場合は、第1・2対戦に出場し、第3対戦を不戦敗とする。

3. 団体戦を1日目に、個人戦を2日目に実施する。

○ 競技規定

1. 現行の(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項による。

2. 使用球は公認球(白色)とする。

3. ユニフォームは、上は襟付半袖のスポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装(用具を含めて)の色等は華美(蛍光色など)にならないようにする。上記の服装から外へ出るハイネック等のアンダーシャツやスパッツの着用は認めない。シャツの裾を外に出したり、袖をまくったりすることはしない。また、ユニフォームは、文言や記号を後から記入もしくは印刷して使用してはいけない。

4. 監督・選手ともにテニスシューズを着用する。

5. ソックスの長さは、くるぶしより上で、ハイソックスは認めない。

6. ハチマキ・帽子・サンバイザーには、正面に特別な文字や記号を記入もしくは印刷し、使用してはいけない。

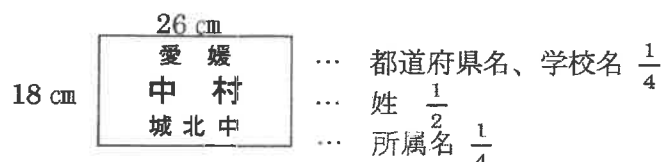
7. 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中の中央に付けること。ただし、4隅を止めることとする。すでにプリントされている文字は隠すように止めつけるものとする。

(1) ゼッケンは、B5判横(白地)の大きさの布に都道府県名、学校名、姓を記述する。都道府県名の「都府県」の文字は付けないものとする。中学校は「中」と表記する。

(2) ゼッケンの文字は「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。

- (3) 都道府県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工夫をしてもよい。
- (4) ゼッケンの文字の位置は下図のとおりとし、同一校に同姓の選手がいる場合には、名前の一部も付け加える。
- (5) 下図のように（公財）日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

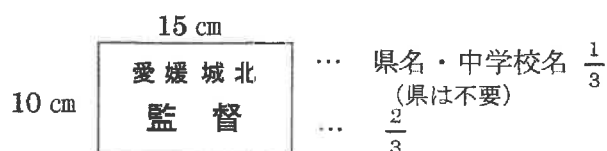
[選手のゼッケン]



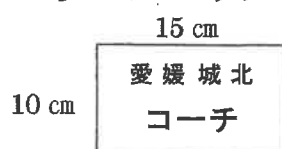
○ 競技上の注意事項

- オーダーは試合ごとに2部作成し、1部を試合後に本部に提出する。
- 個人戦の場合も、監督・コーチ（教員・部活動指導員・外部指導者）はベンチに入ってもよい。
個人戦は、出場ペア数まで監督・コーチをおくことができる。コーチ（教員・部活動指導員・外部指導者）は、申込書に必ず明記しておくこと。
- 監督・コーチは、襟付きのスポーツウェア、テニスシューズを着用のこと。また、監督・コーチは左胸にゼッケンをつけること。（文字、生地の色は特に指定しない。）外部指導者は中体連が定める外部指導者証も所持すること。
- ベンチ外からのコーチは禁止する。（イエローカードの提示の対象とする。）
- 外部指導者（コーチ）がベンチに入る場合は、監督は必ずコート周辺に待機すること。

[監督のゼッケン]

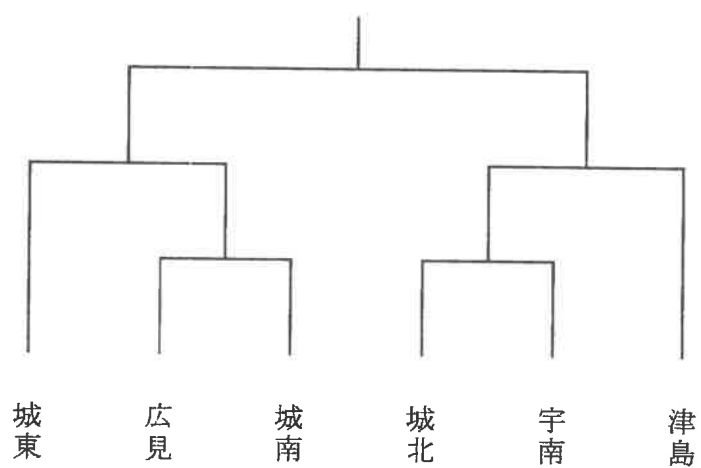


[コーチのゼッケン]

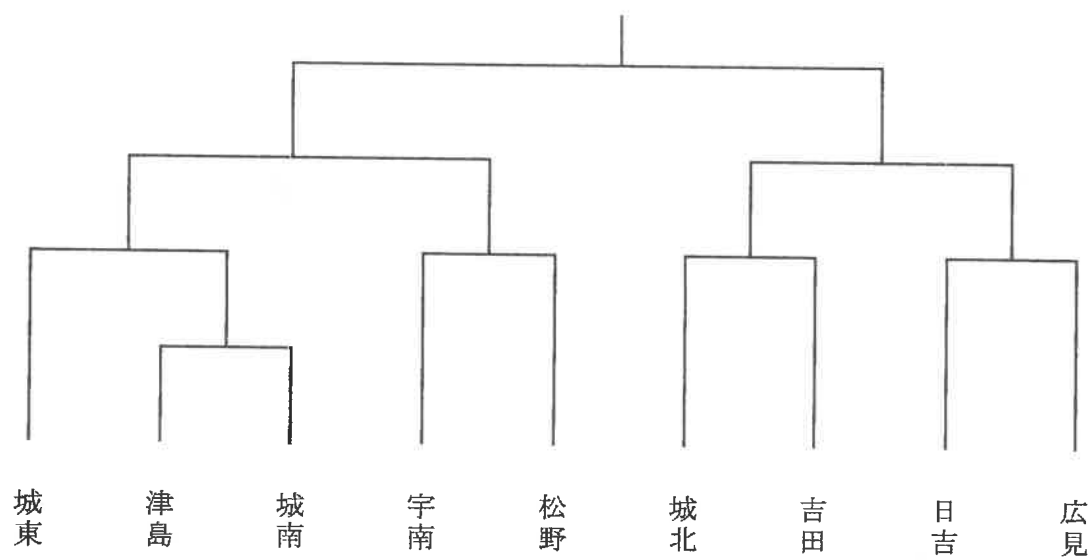


組合せ

ソフトテニス 団体（男子）

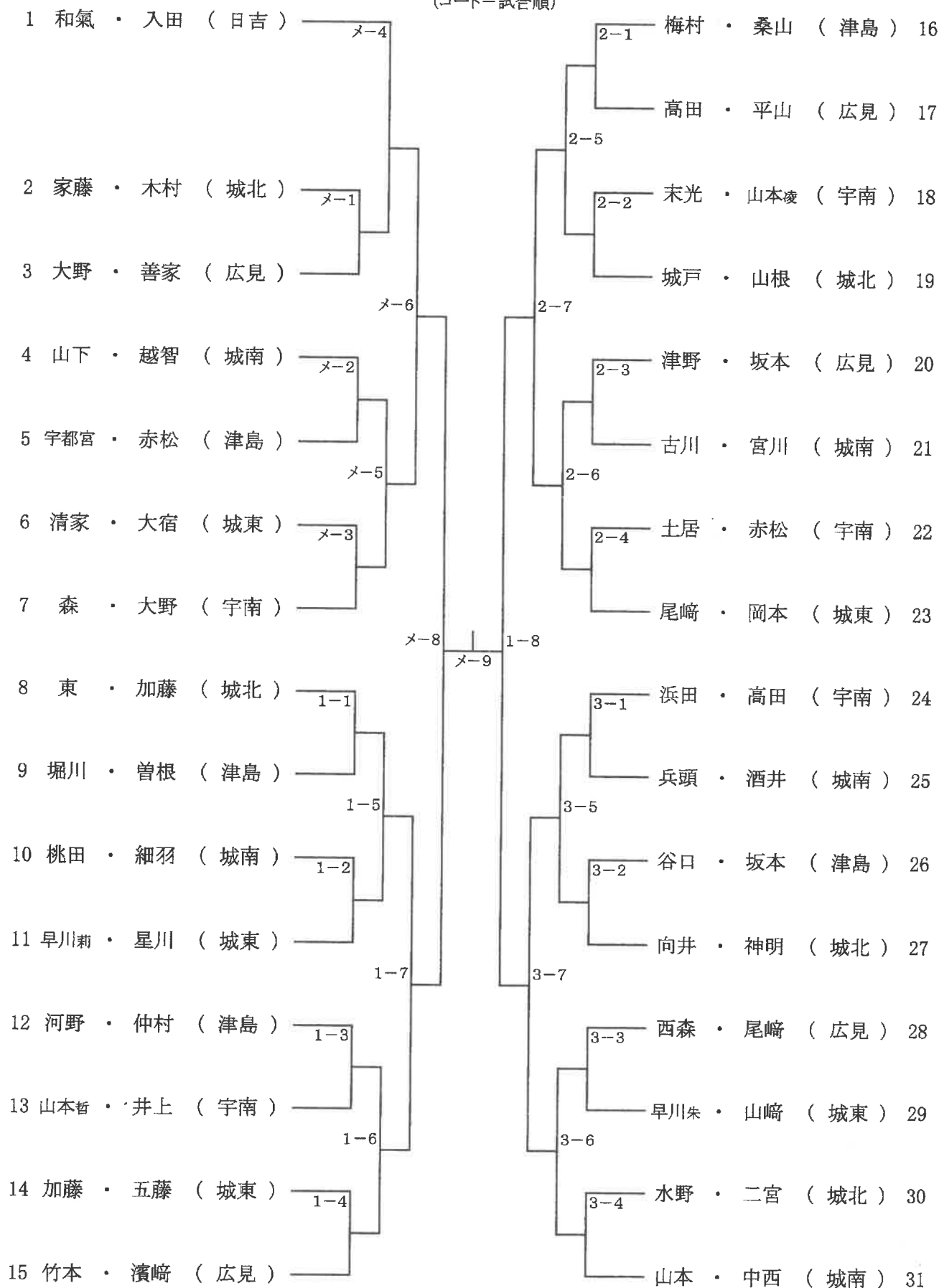


ソフトテニス 団体（女子）

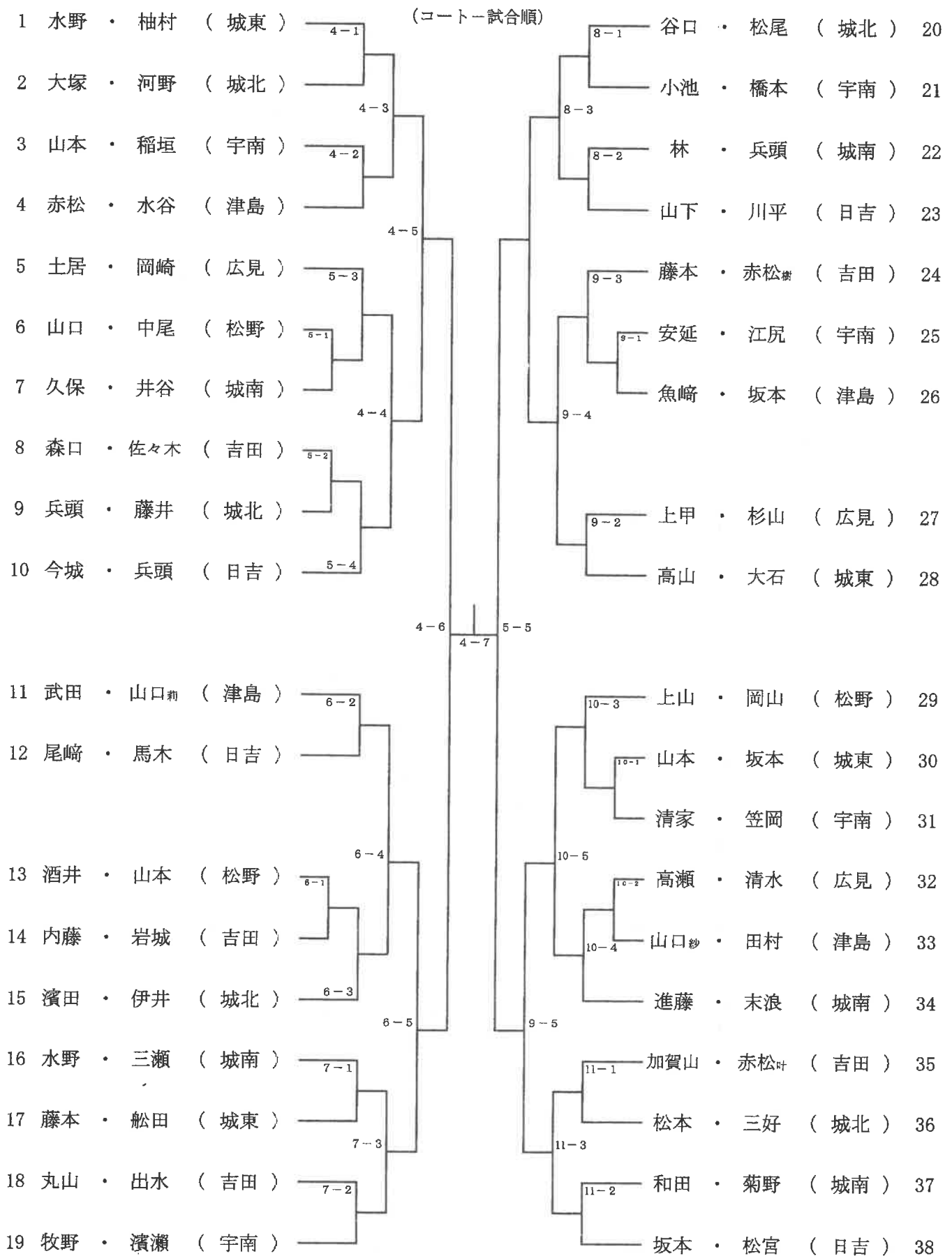


ソフトテニス 個人(男子)

(コートー試合順)



ソフトテニス 個人 (女子)



軟 式 野 球

○ 競技責任者 吉 川 晋 (津 島)

○ 会場責任者 薬師寺 晃 (城 東)

○ 審 判 長 山 口 功 一 (城 南)

○ 審 判 員

渡 辺 卓 一 (宇軟野連) 酒 井 文 男 (宇軟野連) 本 山 順 一 (宇軟野連)

浅 川 幸 治 (宇軟野連) 松 崎 陽 介 (宇軟野連) 清 家 康 太 (宇軟野連)

二 神 崇 雄 (宇軟野連) 山 村 司 (宇軟野連) 渡 邊 卓 (城 北)

○ 運 営 員

上 田 祐 輝 (城 東) 木 下 翔太郎 (城 北) 松 井 仁 志 (城 北)

小 島 啓 法 (三 間) 長 山 尚 輝 (吉 田) 岡 田 真 輔 (広 見)

堀 田 貴 之 (広 見) 竹 葉 弘 一 (松 野) 坂 上 祐 亮 (宇 南)

梅 林 怜 史 (宇 南) 安 藤 賢 治 (天神小)

○ 競 技 方 法

1. 全試合トーナメントとし、各試合は7回戦とする。

2. 5回以降7点差でコールドゲームを適用する。

3. 延長戦は8回から特別延長戦を行う。

○ 競 技 規 定

1. 当該年度公認規則及び大会特別規程による。投手の投球制限は、1日100球とする。但し、試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

2. 1チームの編成は、監督(引率責任者)1名、選手20名以内(スコアラーを含む)とする。また、この他に教員を2名追加することができる。監督は出場校の教員・部活動指導員とする。外部指導者(コーチ)が入る場合は1名とし、出場校の校長が認めコーチ証を所持した者とする。

3. ユニフォーム、アンダーシャツは同一のものを使用し(一番上から11cmの位置に)、背番号を付ける(背番号は、選手は1から20番、監督は30番、コーチは29、28番とする)。監督・外部指導者(コーチ)は、原則として選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。サングラスは使用しない。引率教員は平服でもよいが、平服の場合はグラウンドには入れない。

4. 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、メンバー表を4部持って、打ち合わせをする。

5. シートノックは、後攻側より始め、通告時より7分以内とする(運営上、短縮・省略することもある)。また、試合前の練習及びノックは登録選手以外に3名の補助員をつけることができる。マウンドでの投球練習は認めない。ノッカーは、選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。相手チームのシートノック中は、ベンチから出ない。終了2分前からベンチ前での準備は認める。

6. 試合成立は5回とし、暗黒・降雨によるコールドゲームは適用する。暗黒・降雨などで試合が5回以前に中止となった場合、5回以降同点で中止の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。ただし、決勝戦は再試合とする。

7. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、所定の位置につく。投手、またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置く。

8. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。

9. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは、試合前のノック時以外は、ベンチから出ない。

10. メガホンの使用は、監督のみとする。

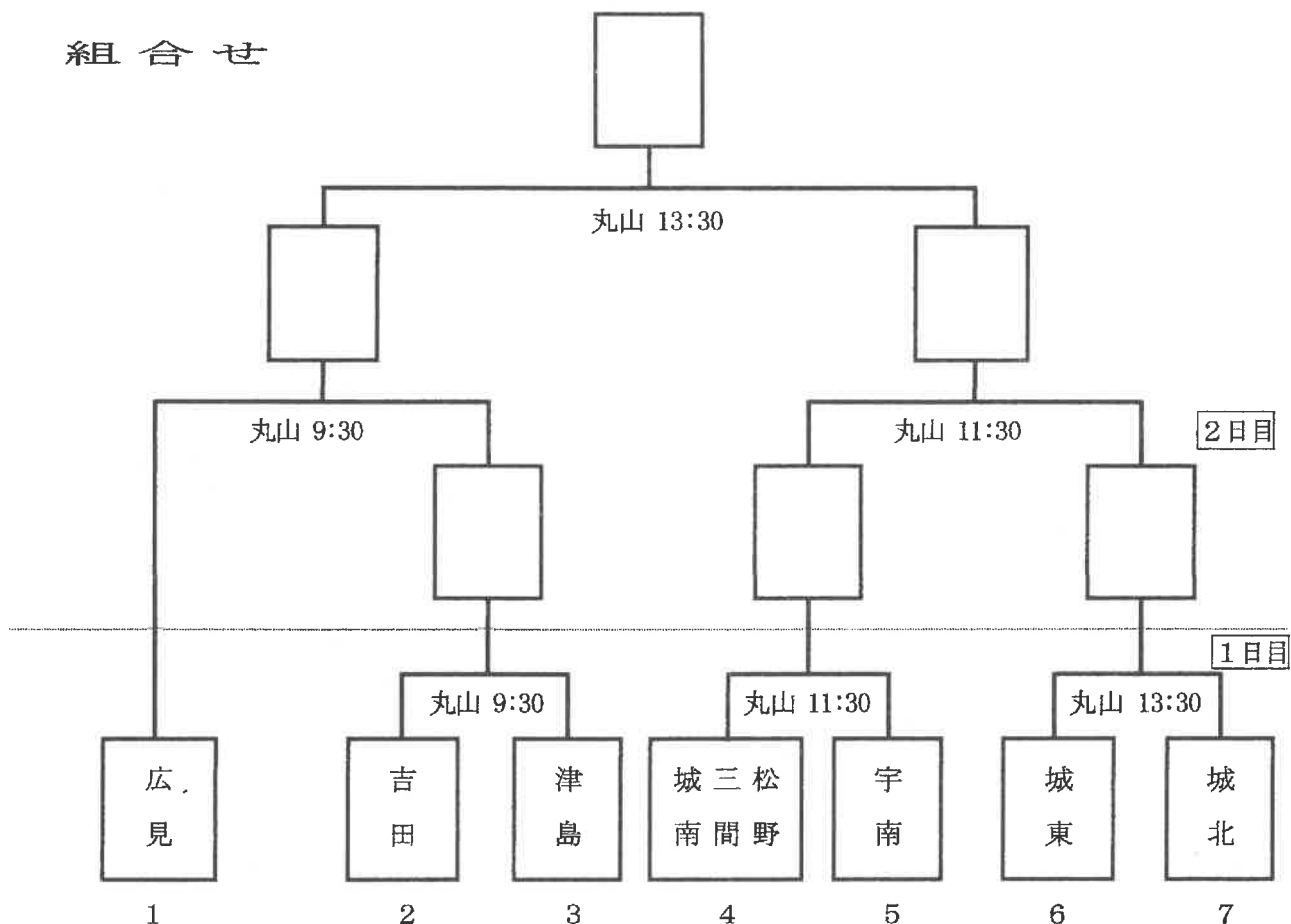
11. 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問できる。

12. 危険防止のため、次のことを徹底する。

① バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。

- ② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトとする。
- ③ 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと（捕手・予備捕手は安全のためマスクをかぶる）、打者と走者及び、シートノック時にノッカーにボールを渡す選手の両耳付きヘルメットは必ず着用する。ベースコーチとバットボーイは危険防止のためにヘルメットを着用する。また、リストバンド及びハイカットストッキング、ユニフォームのロングズボン禁止する。
- ④ 捕手は、ボールを持たないでベースパスの範囲に足を置くことができない。ボールを捕球する動きの中でベースパス内に足を踏み入れることは違反ではない。
- ⑤ 捕手がボールを保持し、ベースパス内で膝をつく姿勢は、走者の走路を妨害したとしてオブストラクションが宣告される。ただし、送球がショートバウンドとなり膝をついた状態で捕球し、そのままタッグプレーとなった場合は、捕球する中の動きであり違反ではない。
13. 投手を含む野手3人以上が、一試合に投手の所に集まれる回数を3度以内とする。なお、延長戦は2回に一度行くことができる。監督が、同一回に同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手を交代しなければならない。
14. 応援団は、紙吹雪・テープ・個人名の書いたのぼり等の応援を禁止する。また、相手チームに不利を招くような応援（やじ等）やゲームを妨害するような応援をしない。
15. 選手の頭髪や身なりは、中学生らしくあること。試合中・前後でのマナーを十分に考慮する。
16. 選手のテーピングは、肌色に近いものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。
17. 本塁打を打った打者に握手等を求めるために、グラウンドには出てはいけない。
18. ベースコーチは、打者が打つまでは、打者より一番遠い枠内の位置にいる。

組 合 せ

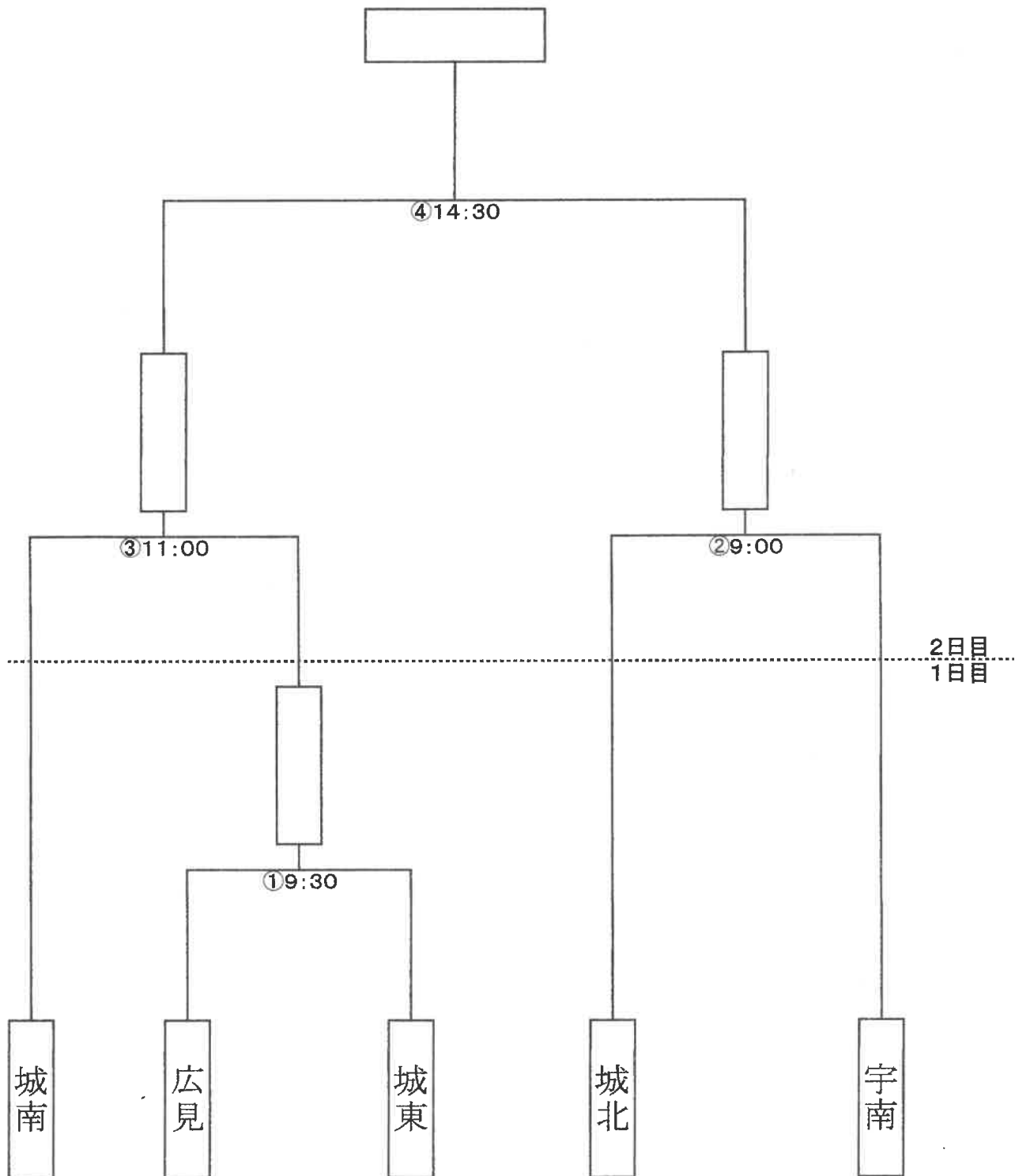


- ※ ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- ※ 試合開始時刻は、進行状況によって多少の前後がある。
 なお、決勝戦は30分程度時間をおいて試合開始とする。

サ ッ カ ー

- 競技責任者 脇 本 健太郎 (城 東)
- 会場責任者 佐 伯 翔 平 (城 北)
- 審 判 長 加賀山 和 宏 (広 見)
- 審 判 員
 - 脇 本 健太郎 (城 東) 清 家 稔 (城 東) 松 本 賢 吾 (城 南)
 - 佐 伯 翔 平 (城 北) 重 見 一 平 (宇 南) 赤 松 弘 教 (市川協)
 - 内 山 勝 允 (市川協) 大 塚 隆 三 (市川協) 越 智 脩 二 (市川協)
 - 八 板 謙 (市川協)
- 運 営 員 坂 本 亮 介 (奥南小)
- 競技方法
 - 1. トーナメント方式とする。
 - 2. 試合時間は60分(30分ハーフ)とする。なお、1回戦・準決勝において勝敗が決しないときは、PK方式により勝敗を決定する。決勝において勝敗が決しないときは、10分間(5分ハーフ)の延長戦を実施し、なお決しないときには再度、10分間(5分ハーフ)の延長戦を実施する。それでもなお決しないときにはPK方式により勝敗を決定する。
 - 3. 酷暑対策として、飲水タイムもしくはクーリング・ブレイクを設けることがある。ただしその決定は、監督会議で行うものとする。
- 競技規定
 - 1. (公財)日本サッカー協会の「サッカー競技規則」による。
 - 2. 選手登録は18名以内とし、競技開始前に登録した最大7名の交代要員の中から、7名までの交代が認められ、1度退いた競技者も再び出場することができる。ただし、交代の手続きは従来通りサッカー競技規則第3条に則って行う。
 - 3. 試合球は公認球(5号)とし、競技規則第2条に適合するものとする。
 - 4. 本大会において退場を命じられた選手は次の1試合に出場できず、違反行為の内容によっては競技責任者、審判長、審判員でそれ以降の措置について決定する。
 - 5. 本大会期間中、警告を2回受けた選手は次の1試合に出場できない。
 - 6. 各チームは監督1名、選手18名に加え、引率者1名、コーチ1名(すべて監督が兼ねることができる)、校長のうち2名までがベンチ入りすることができる。
- 競技規定
 - 1. ユニフォームは登録されたものを使用すること。背番号は1番から99番までとする。必ず正・副(上衣、パンツ、ストッキング)2着を用意すること。
 - 2. 審判員と同一または類似色みのユニフォームのシャツを用いることはできない。ゴールキーパーについても同様である。
 - 3. 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中止し、その後の処置については大会本部もしくは大会役員で決定する。

組合せ



柔 道

- 競技責任者 梶 谷 啓 介 (城 北)
- 会場責任者 森 田 真 帆 (津 島)
- 審 判 長 梶 谷 宗 範 (日 吉)
- 審 判 員
 - 山 下 孝 文 (宇和島東高) 梶 田 浩 (鬼城柔) 上 甲 清 幸 (鬼城柔)
 - 河 辺 泰 司 (鬼城柔) 山 口 真 也 (鬼城柔) 梶 原 純 (吉田柔)
 - 毛 利 泰 三 (三間ク) 田 村 康 雄 (津島柔) 福 島 亮 (津島柔)
 - 伊 藤 優 子 (宇和柔) 尾 崎 大 介 (八西柔)
- 救 護 員 細 田 英 樹 (医 師)
- 運 営 員
 - ・ 受 付 村 上 恵 (広 見) 梶 谷 奈 美 (吉 田)
 - ・ 体重測定 男 子 梶 谷 宗 範 (日 吉) 有 馬 伸 貴 (三 間)
 - 女 子 河 野 重 克 (松 野) 森 田 真 帆 (津 島)
 - ・ 本部記録 村 上 恵 (広 見) 梶 谷 奈 美 (吉 田)
 - ・ 表 彰 福 岡 拓 矢 (城 東) 河 野 重 克 (松 野)
 - ・ 試合場係 第1試合場 溝 脇 美 希 (吉田柔)
 - 第2試合場 有 馬 伸 貴 (三 間)

○ 競 技 方 法

1. 団 体 戦

- (1) 男女ともトーナメント方式とする。
- (2) 男子は1チーム5人制、女子は1チーム3人制により試合を行う。
- (3) チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても、同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替え及び一度退いた選手の再出場は認めない。
- (4) 試合時間は3分間とし、代表戦における延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。
- (5) 勝敗の判定基準は、「一本」、「技あり」又は「僅差(『指導』の差2)」とする。
- (6) 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」 = 「反則勝ち」 > 「技あり」 > 「僅差」

- (7) 団体戦の勝敗は、次の方法によって決定する。
 - ① チーム間における勝ち数による。
 - ② ①において同等の場合は内容により決定する。
 - ③ ②において同等の場合は、1名による代表戦により決定する。
- (8) 代表戦は任意の選手とし、判定基準は団体戦と同様とするが、3分間の本戦で得点差が無い場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦による勝敗の決定方法は個人戦と同様とする。

2. 個 人 戦

- (1) 男女ともトーナメント方式とする。
- (2) 試合時間は3分間とし、延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。
- (3) 勝敗の判定基準は、「一本」、「技あり」、又は「僅差(『指導』の差2)」とする。得点差が無い場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
- (4) 両者反則負けの場合には、次の試合に進めない。延長戦(ゴールデンスコア)で新たに指導差がついた時点で勝敗が決する。

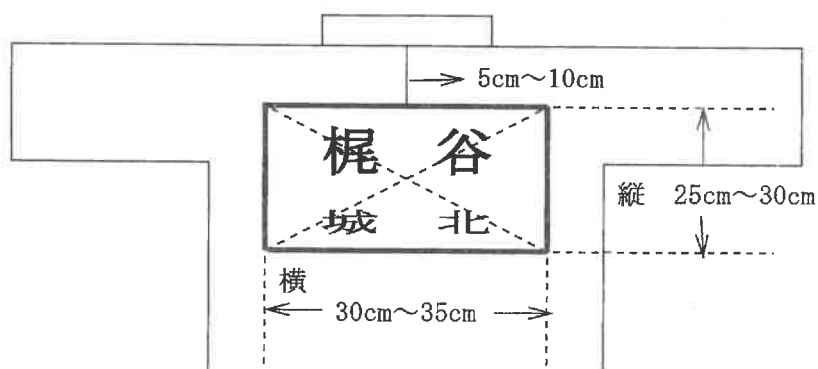
(5) 体重区分は次の通りとする。

① 男子	50 kg級 (50 kg以下)	55 kg級 (50 kg超～55 kg以下)
	60 kg級 (55 kg超～60 kg以下)	66 kg級 (60 kg超～66 kg以下)
	73 kg級 (66 kg超～73 kg以下)	81 kg級 (73 kg超～81 kg以下)
	90 kg級 (81 kg超～90 kg以下)	90 kg超級 (90 kg超)
② 女子	40 kg級 (40 kg以下)	44 kg級 (40 kg超～44 kg以下)
	48 kg級 (44 kg超～48 kg以下)	52 kg級 (48 kg超～52 kg以下)
	57 kg級 (52 kg超～57 kg以下)	63 kg級 (57 kg超～63 kg以下)
	70 kg級 (63 kg超～70 kg以下)	70 kg超級 (70 kg超)

○ 競技規定

- 国際柔道連盟試合審判規定（2018年4月1日施行の新ルール）及び同国内における「少年大会特別規定」による。
- 柔道衣は白色とする。
- （公財）講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は黒帯を用いること。
- 女子の黒帯使用は、白線なしのものを使用する。
- 現行の（公財）全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下穿き・帯）を着用すること（新規格の赤色のマーキングのもの）。
- 柔道衣に必ずゼッケン（学校名・名字入り）を縫い付けて出場すること。
 - 布地は白（晒、太綾）とする。
 - サイズは横30～35 cm、縦25～30 cmとする。
 - 名字（姓）は上側2／3、学校名は下側1／3とする。
 - 書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。
 - 文字色は、男子は黒色、女子は濃い赤色とする。
 - 縫い付け場所は襟から5 cm～10 cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

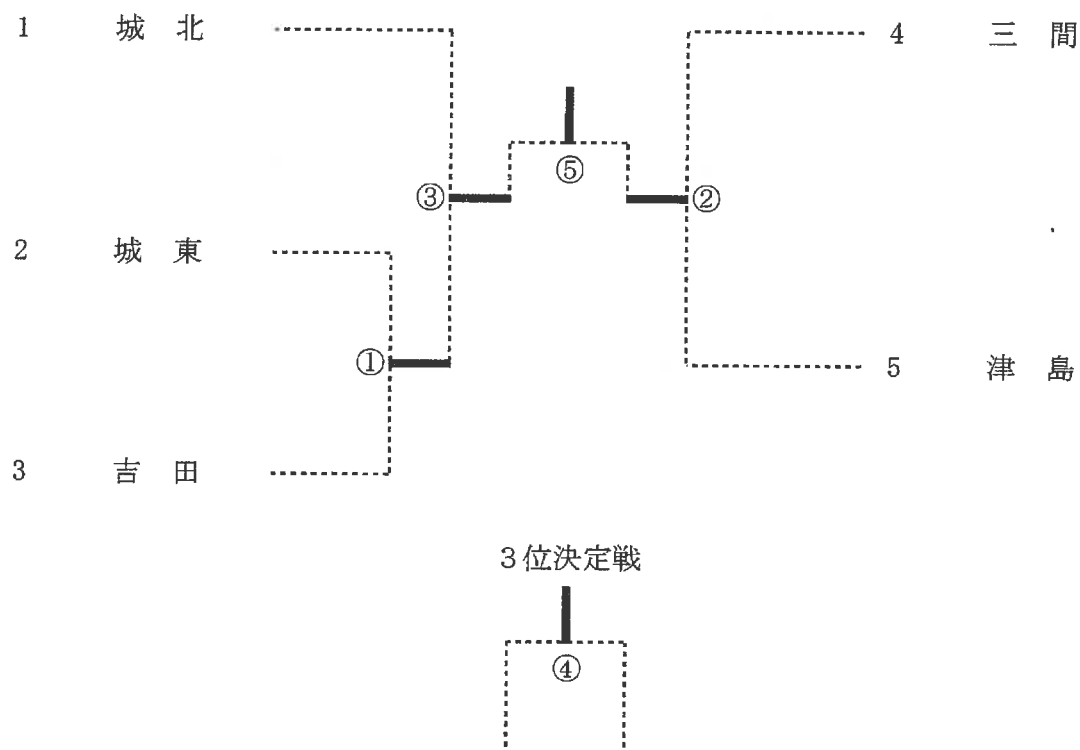
（例）



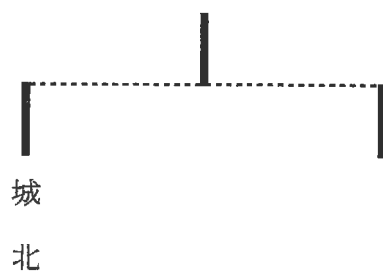
- 女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。 ※Tシャツのマーキングについては、（公財）全日本柔道連盟が定める規程（平成25年4月1日より施行）に準ずる。
- 柔道衣コントロールの際は、試合時に着けるサポーター等を着用して受けること。
- 胸マーキング等について、道場名等は不可とする。
- 体重に増減があった場合、失格とする。但し、女子はTシャツ・下ばきで1 kg オーバーまで認める。
- 皮膚真菌症（トングランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手の皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができないこともある。
- 脳震盪対応について、選手及び指導者は下記事項を遵守する。
 - 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする（なお至急専門医の精査を受けること）。
 - 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - 当該選手の指導者は、大会事務局及び（公財）全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- いわゆる「絞め落ち」となった選手は、その後の一連の試合に出場することはできない。ただし、団体戦と個人戦は一連の試合とは見なさない。
- 初心者が試合に出場するまでの期間は、練習開始から少なくとも6ヶ月経過後とする。

組合せ

柔道団体（男子）

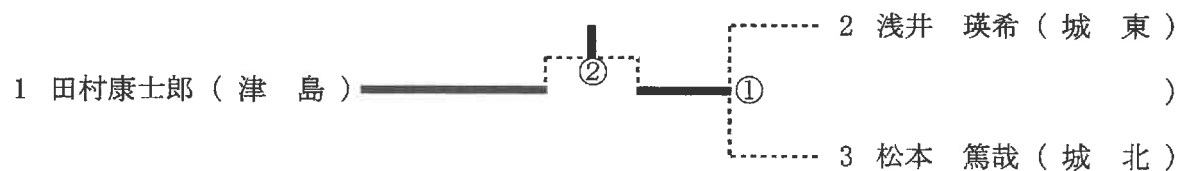


柔道団体（女子）

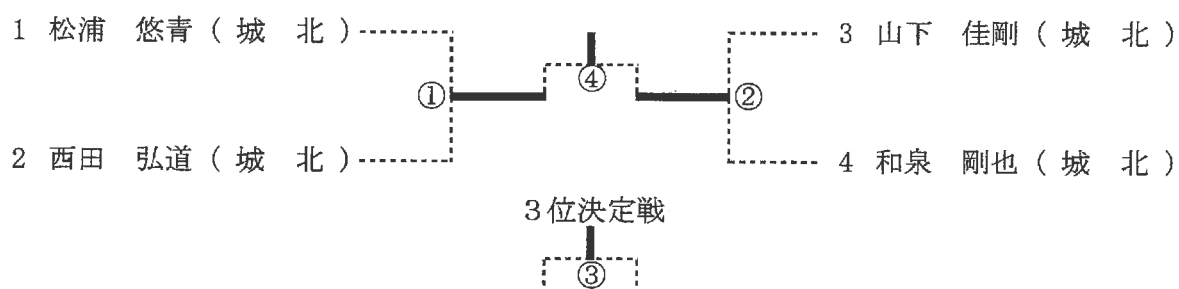


柔道個人（男子）

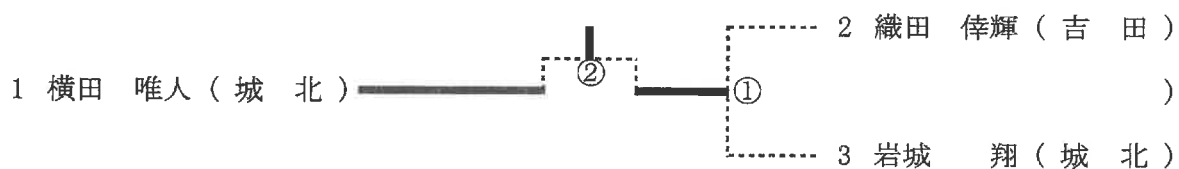
男子50kg級



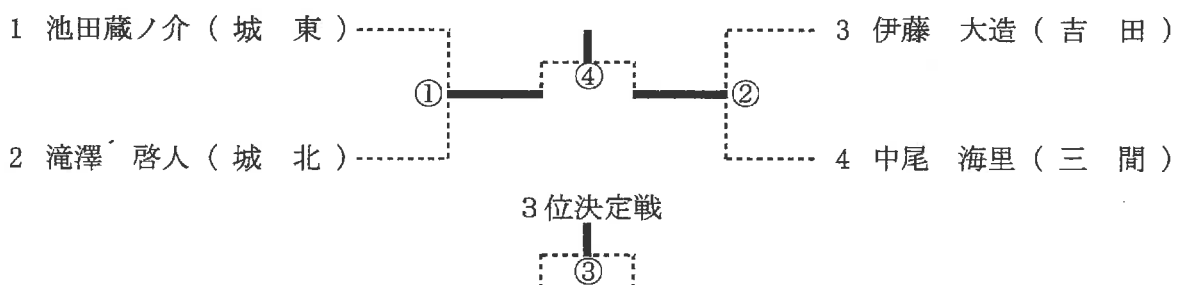
男子55kg級



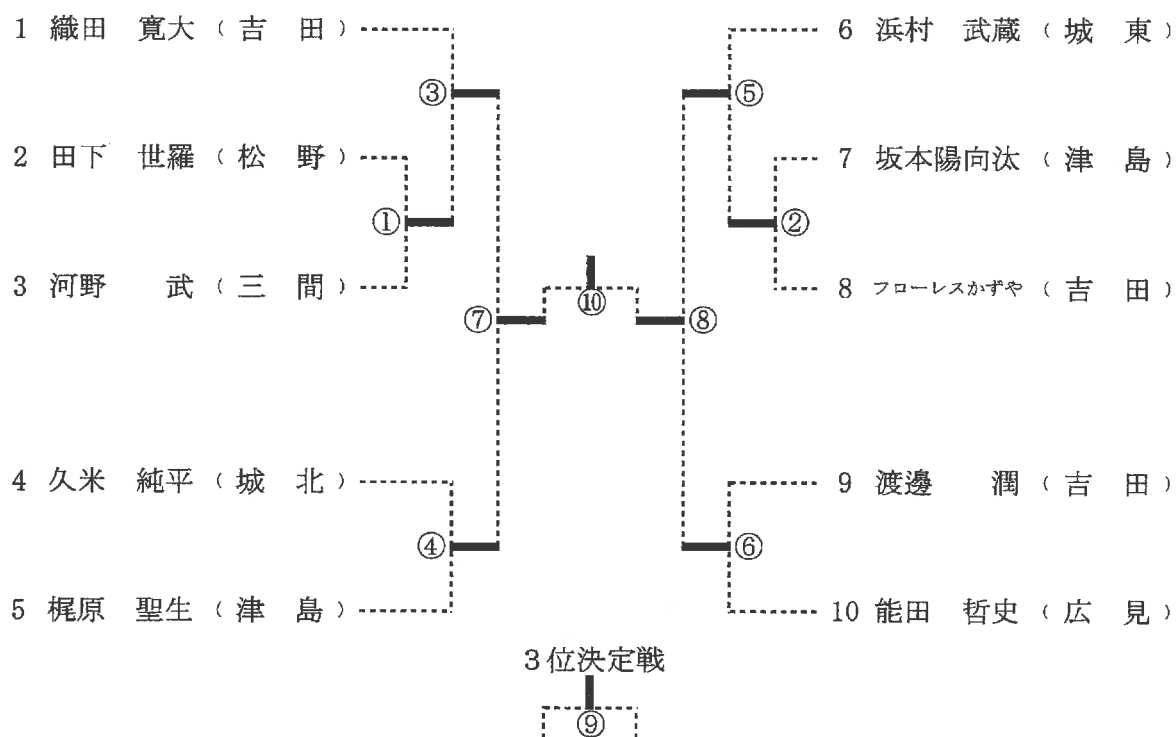
男子60kg級



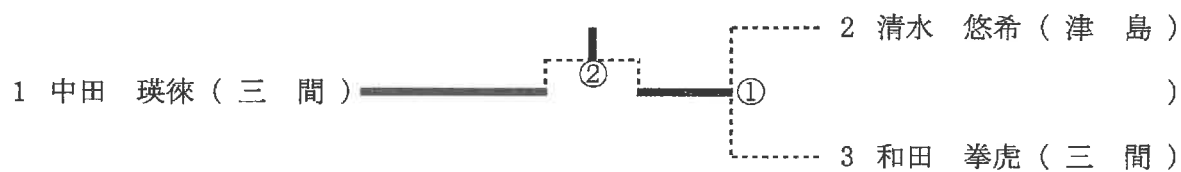
男子66kg級



男子73kg級



男子81kg級



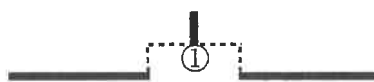
男子90kg超級



柔道個人（女子）

女子44kg級

1 梶谷 侑生（城北）



山下ひかり（津島）

女子48kg級

1 大竹 殊生（城北）



伊藤 妃花（吉田）

女子52kg級

1 吉田 果穂（城北）



女子57kg級

1 松本 春海（城北）



女子63kg級

1 小西 柚葉（三間）



女子70kg級

1 上甲 華（城北）



剣 道

- 競技責任者 山本 孝信 (城 東)
- 会場責任者 酒井 孝夫 (三 間)
- 審 判 長 酒井 孝夫 (三 間)
- 審 判 員 古谷 龍夫 (鬼北剣) 菊池 新八 (宇和島剣) 善家 慎介 (三間剣) 高須賀和幸 (宇和島剣)
大瀧 康孝 (鬼北剣) 高田 賢三 (鬼北剣) 伊勢田 誠 (宇和島剣) 木田 光俊 (宇和島剣)
明神 正勉 (三間剣) 渡邊 浩明 (三間剣) 五島 卓也 (宇和島剣) 五島 啓太 (宇和島剣)
池田 公志 (学剣連) 桐山 浩之 (学剣連)
- 運 営 員 清家 千芳 (城 南) 寺岡 博樹 (城 北) 新城 采音 (広 見) 工藤 洋志 (宇 南)
宮下 友一 (宇和津小)
- 救 護 員 宮部 美香 (宇 南)
- 競技方法

団体戦は、男子はトーナメントを行い、順位を決定する。女子は実施しない。

個人戦はトーナメントとし、3位決定戦を行う。

○ 競技規定

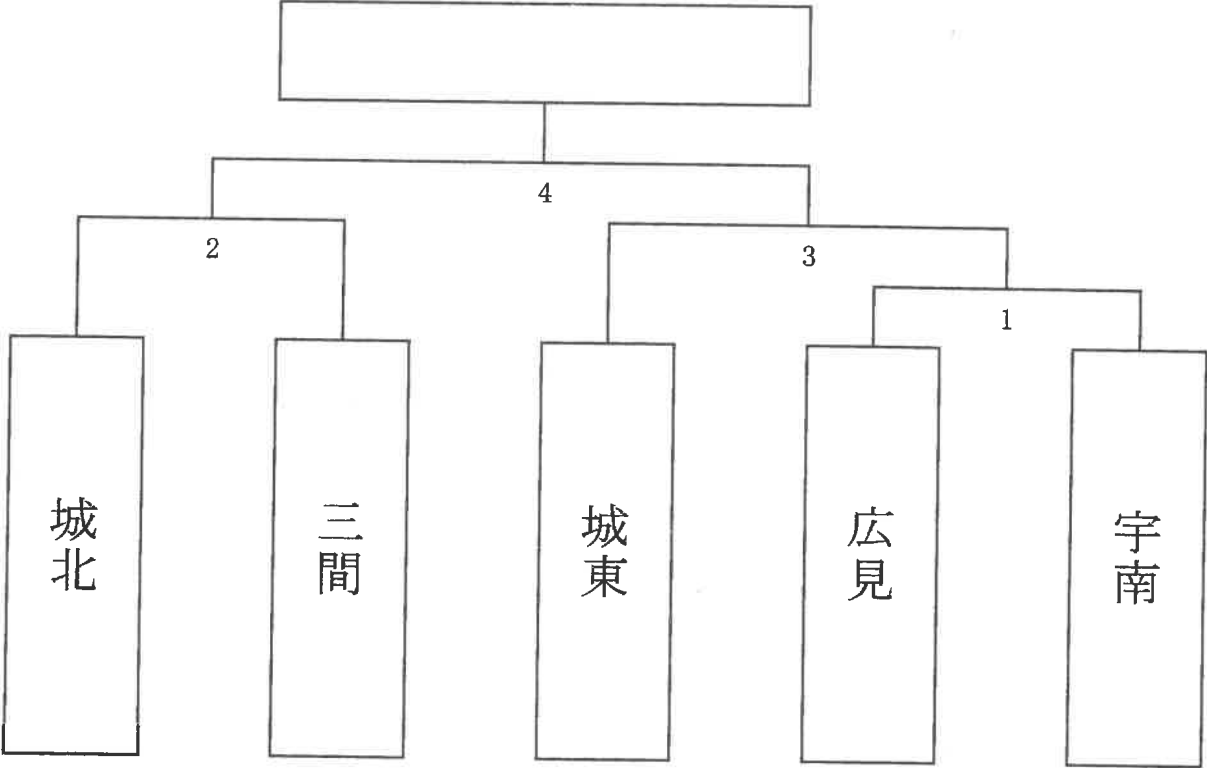
1. 全日本剣道連盟の「剣道試合・審判規則及び細則」、及び日本中体連剣道競技部申し合わせ事項によって行う。
2. 団体戦
 - (1) 3名以上で出場可。ただし、3名の場合は先鋒・中堅・大将の位置で行う。4名の場合は、先鋒・中堅・副将・大将の位置で行う。
 - (2) 3分間3本勝負とする。ただし、勝敗が決しない場合は引き分けとする。
 - (3) 団体戦の勝敗は勝者数による。勝者数が同じ場合は、勝本数の多い方を勝ちとする。さらに、同数の場合は、代表戦を行う。代表戦は1本勝負で勝敗の決するまで時間を区切って行う。
 - (4) 登録選手として申し込みのない者は、正員の位置に入れることはできない。
 - (5) オーダーは申し込み後変更を認めない。
 - (6) 団体戦では、補員と交代した者は再び選手として出場できない。
3. 個人戦は、3分間3本勝負とする。勝敗が決しない場合は、延長を時間を区切って、勝敗の決するまで行う。
4. 竹刀は男女とも114 cm以下とし、竹刀の先部の直径は、男子25 mm以上、女子24 mm以上でなければならない。また、先革の長さは50 mm以上とする。重さは、男子440 g以上、女子400 g以上とし、計測、計量を行う。アイガード・ポリカーボネート面及び化学繊維竹刀の使用は認める。竹刀のつるの色は、白・黄・紫のみとする。
5. つばの大きさは直径9 cm以下とし、色は革色のもの（白色も可）を使用する。（絵付きのものは装着の状況による）
6. 突きおよび上段の構え、二刀は禁止する。
7. 服装は、剣道着および袴を着用し、たれの前に学校名「中」（横）、姓（縦）を黒または紺地に白文字で記入する。剣道着のそで口に学校名以外の名前の刺繍の入っている剣道着の着用は認めない。（関係のないワッペン等の着用も認めない。）
8. 面ひもの長さは結び目より40 cm以内とする。
9. サポーター等（足袋・テーピング、コルセットを含む）の使用については、医療上必要と認める場合に限り使用を認める。使用する場合は、試合開始までに各審判主任に届け出た上で使用する。また、肘や膝などに付ける物を足に使用したり、ゴムや革及びすべり止めを底に貼った物の使用は禁止とする。指先単独のテ

ーピングは届け出は不要。届け出と違う物を使用した者は、替えさせる。

10. 面乳革は大きさ、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
11. 面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。（通常とは面金前部が銀色、面縁革の色が外側黒、内側朱のもの）
12. 柄革は、滑り止めや模様等のない無地のもので、白とする。

剣道 団体（男子）

第1・2試合場



左が赤

第1試合場

第一試合	2
第二試合	4

第2試合場

1	第一試合	1
2	第二試合	3

剣道 団体（女子）

第1試合場

優勝

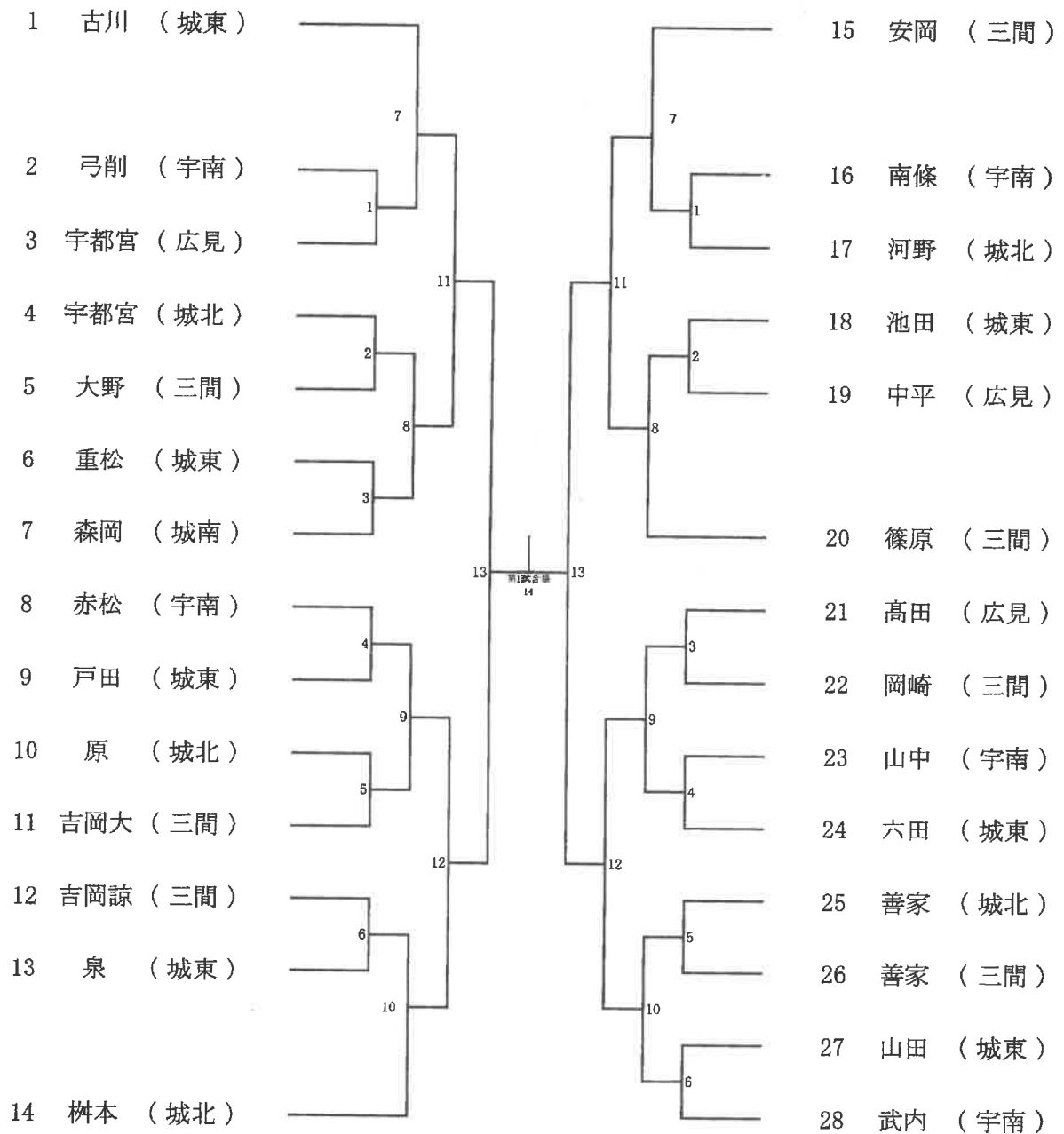


剣道 個人 (男子)

上が赤

第1試合場

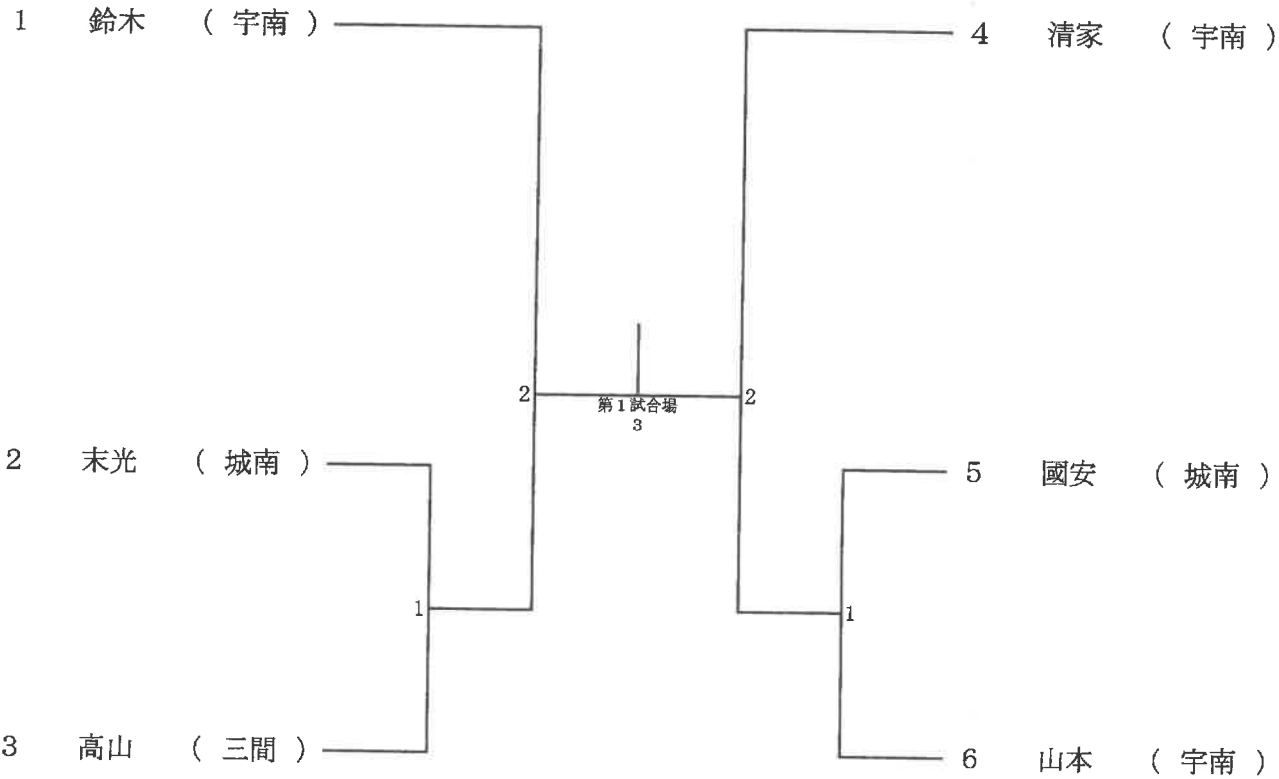
第2試合場



剣道 個人 (女子)
第1 試合場

上が赤

第2 試合場



3 位決定戦

第1 試合場
2 の敗者

()

第2 試合場
3

()

第2 試合場
2 の敗者

赤

白

体 操 競 技

- 競技責任者 山 口 留 美 (城 北)
 ○ 会場責任者 山 口 留 美 (城 北)
 ○ 審 判 長 山 口 留 美 (城 北)
 ○ 審 判 員 東海林 慎 介 (県体協) 長 山 愛 (県体協)
 山 口 直 子 (県体協) 山 下 厚 順 (県体協)
 ○ 運 営 員 木野下 志 麻 (城 南)

○ 競 技 方 法

1. 男女とも、自由演技のみを実施する。
2. 1チームは3～4名で編成し、その他に補欠1名を認め、学校単位とする。また、団体と個人を兼ねることはできない。
3. 団体総合は、3種目（男子あん馬、女子段違い平行棒を除く）の自由演技とする。
4. 個人総合は、4種目の自由演技とする。

○ 競 技 規 定

1. 男子は、日本体操協会制定2017年版男子採点規則2017制定・2018年中学校適用規則を適用する。
2. 女子は、日本体操協会制定2017年版女子採点規則・変更規則Ⅰ女子体操競技情報最新版を適用する。

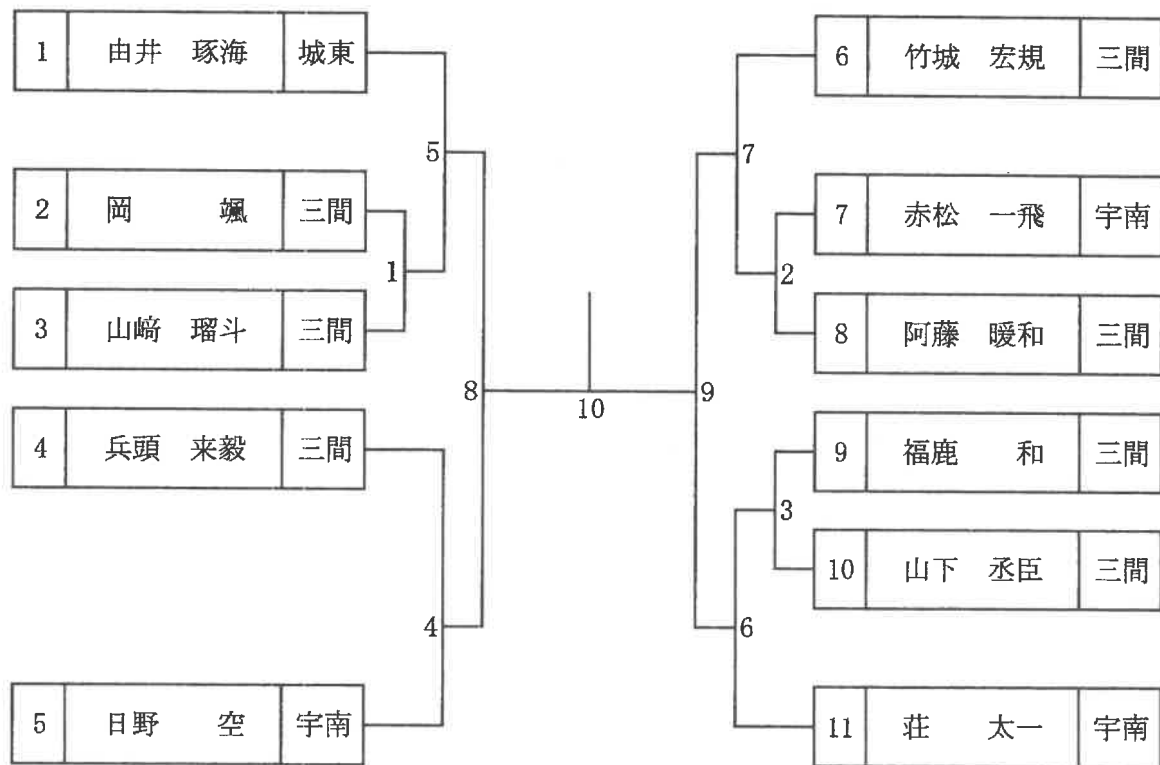
【女子】

校 名	氏 名	番 号	跳馬		段違い平行棒		平均台		ゆか		計	個人総合 順位	団体 順位
			得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位			
城 北	遠山 莉子	91											
	齋藤菜々美	92											
	宮崎わかな	93											
	吉岡 彩姫	94											
	ベスト3												

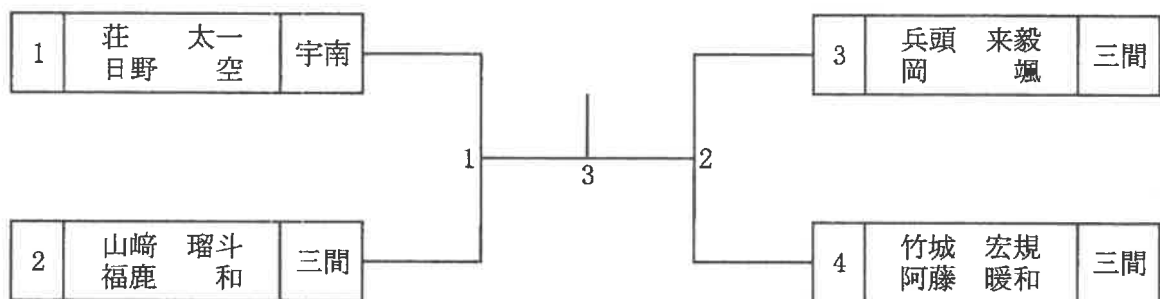
テ ニ ス

- 競技責任者 井上 雅文（三 間）
- 会場責任者 井上 雅文（三 間）
- 審 判 長 井上 雅文（三 間）
- 審 判 員 清岡 幸一（宇テ連） 赤松 拓也（宇テ連） 井本 純生（宇テ連）
- 運 営 員 井上 雅文（三 間） 松本 裕子（三 間）
- 参加規程
 - 1 団体は、同一校の選手4名以上10名以内と監督またはコーチ1名で構成する。
 - 2 個人シングルスは、各校16名以内とする。
 - 3 個人ダブルスは、同一校の選手2名で構成し、各校8ペア以内とする。
- 競技方法
 - 1 1セットマッチ（6ゲーム先取）とする。団体・個人（シングルス・ダブルス）とも、ノーアドバンテージ方式とする。
 - 2 団体は4名からエントリーを認める。登録メンバーは10名までとし、シングルスとダブルスを重複して出場することはできない。エントリーが7名未満の場合、棄権ゲームは相手チームのポイントとする。エントリーが7名に満たないチーム同士の対戦でポイント数が同じになった場合は、ダブルス1、シングルス2、シングルス1の3ポイントの結果で勝敗を決定する
 - ① 4名の場合 ダブルス2：棄権 ダブルス1：○ シングルス3：棄権 シングルス2：○ シングルス1：○
 - ② 5名の場合 ダブルス2：棄権 ダブルス1：○ シングルス3：○ シングルス2：○ シングルス1：○
 - ③ 6名の場合 ダブルス2：○ ダブルス1：○ シングルス3：棄権 シングルス2：○ シングルス1：○
 - 3 個人はシングルス、ダブルス共にトーナメントで行う。
- 競技規定
 - 1 （公財）日本テニス協会「テニスルールブック」による。
 - 2 審判は、SCU（ソロチェアアンパイア）を原則とする。
 - 3 試合球は、ダンロップ・オーストラリアンオープンとする。
 - 4 服装は、上下ともテニスウェアとする。（ゼッケン等は必要ない。）
 - 5 個人シングルスはベスト16、個人ダブルスはベスト8の選手に県新人大会の出場権が与えられる。
- 注意事項
 - 1 指示があるまでコートには絶対入らないこと。
 - 2 試合前の練習はサービス4本のみとする。
 - 3 個人シングルスのみ、各校1名、ボールパーソンをつけることができる。
 - 4 セルフジャッジができない場合は、その時点で失格とする。

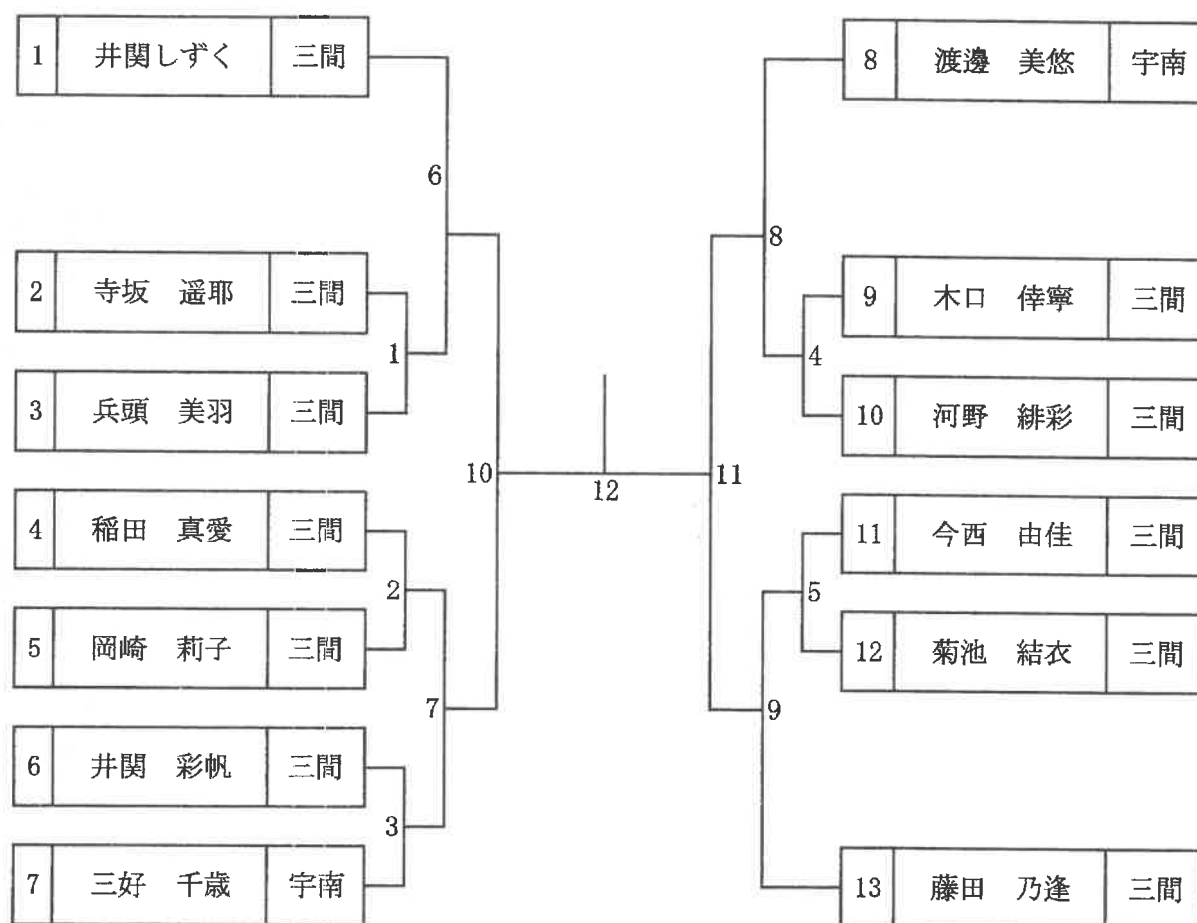
テニス 個人シングルス (男子)



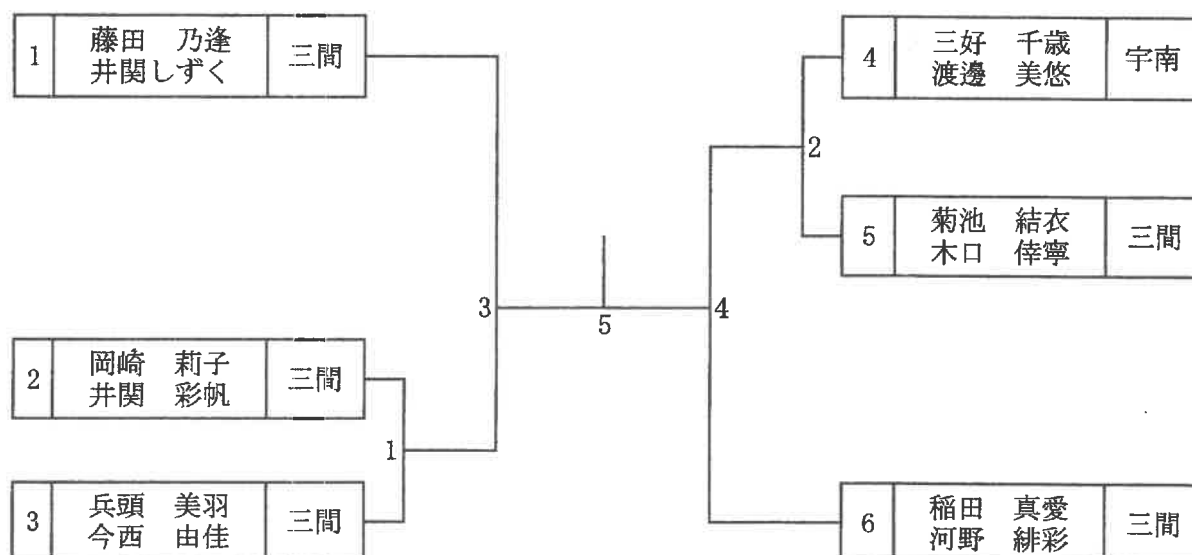
テニス 個人ダブルス (男子)



テニス 個人シングルス (女子)



テニス 個人ダブルス (女子)



歴 代 優 勝 校

競 技 回	ボバ ー レ ー ル		ボバ ス ケ ー ツ ル		卓 球		テ ニ ス		軟 式 野 球	ボ ー ル	サ ッ カ ー	柔 道		剣 道		体 操 競 技		相 撲	テ ニ ス	
	男	女	男	女	男	女	男	女	共	女	共	男	女	男	女	男	女	男	男	女
1	松	吉	城	城	宇	城	城	城	城		城	津	津	広	城	城	津	津		
	野	田	東	東	南	東	東	東	東		東	島	島	見	南	北	島	島		
2	松	吉	城	宇	城	城	津	城	津	城	城	城	城	城	城	津	津	津		
	野	田	東	南	東	東	島	東	島	北	東	南	北	東	東	島	島	島		
3	松	吉	城	城	城	三	日	城	宇	城	城	城	城	三	広	津	城	津		
	野	田	東	東	北	間	吉	南	和	北	東	北	北	間	見	島	北	島		
4	松	吉	城	城	吉	広	広	城	津	城	宇	津	城	三	広	津	城	津		
	野	田	東	東	田	見	見	東	島	北	南	島	北	間	見	島	北	島		
5	松	吉	宇	城	城	広	城	三	三	城	城	城	城	三	宇		城	津		
	野	田	南	南	北	見	東	間	間	北	東	北	北	間	南		北	島		
6	松	吉	宇	宇	津	津	日	城	広	城	宇	城	津	広	三		城	津		
	野	田	南	南	島	島	吉	南	見	北	南	北	島	見	間		北	島		
7	松	吉	宇	宇	城	広	日	城	城	城	城	城	城	三	三		城	津		
	野	田	南	南	南	見	吉	東	東	北	東	東	北	間	間		北	島		
8	松	吉	城	城	城	広	城	津	吉	城	城	城	城	三	三		城	津		
	野	田	東	東	東	見	南	島	田	北	北	東	北	間	間		北	島		
9	松	宇	城	城	城	津	日	城	津	城	城	津	城	三	吉	城	城	津		三
	野	南	東	東	北	島	吉	南	島	北	北	島	北	間	田	北	北	島		間
10	松	吉	宇	城	津	広	日	日	三	城	宇	津	城	広	広	城		津	三	三
	野	田	南	東	島	見	吉	吉	間	北	南	島	北	見	見	北		島	間	間
11	松	城	宇	城	城	吉	日	城	宇	城	城	津	三	吉	三		城		三	三
	野	北	南	東	南	田	吉	東	南	北	東	島	間	田	間		北		間	間
12	城	宇	城	城	津	城	日	日	城	城	城	津	三	宇	三		城		三	三
	東	南	東	東	島	北	吉	吉	東	北	東	島	間	南	間		北		間	間
13	松	広	城	城	津	宇	日	広	広	城	城	三	三	三	広		城		宇	三
	野	見	東	東	島	南	吉	見	見	北	東	間	間	間	見		北		南	間
14	松	広	城	城	津	津	日	城	三	城	城	三	城	三	宇		城		三	三
	野	見	東	東	島	島	吉	東	間	北	南	間	北	間	南		北		間	間
15																				